

我傳染病研究所ニ於テハ第八日苗ヨリ始メテ第二日苗ニ及ビ全日數十八日ヲ要スト云フ。  
 本豫防接種法ニヨリテ免疫ノ發生スルハ二週乃至三週半ヲ要ス故ニ本接種ハ終局ト潜伏期ノ終末トノ間ニハ少ナクトモ二週ノ時日ヲ介在セシムルニアラザレバ確的保護ハ望ムベカラズサレバ豫防接種ハ成ルベク早期ニ施行セズンバ其効不確ナルベキナリ。

本接種法ハ通例何等ノ併發症ヲモ現ハスコトナシ膿瘍浸潤丹毒等ハ稀有ノ偶發症ナリ其他狂犬病豫防注射ノ間ニ於テ脚顔面神經膀胱直腸等ニ於テ一時性麻痺症狀ヲ見ルコトアリト云フ。

本接種法ノ効驗ハ甚ダ顯著ナルモノニシテ發病者ハ極メテ少シ柏林傳染病研究所ノ狂犬病部ニ於ケル統計ニヨルニ從來狂犬ノ咬傷ヲ受ケシモノ、發病數(又死亡數)ハ一五—一六%ヲ算セシモ千八百八十九年同部設置以來千九百年迄ニ狂犬ニ咬傷セラレタル人員八百五十三名ニ豫防接種ヲ行ヒ僅ニ二人(即チ〇・二四%)ニ於テ狂犬病ノ發現ヲ見タリト云フ。

尙ホ本病ノ豫防上緊要ナルハ狂犬ノ處置ナリ就中自然ニ狂犬病ヲ發スルハ主トシテ犬ナルヲ以テ犬ノ取締ヲ行フハ本病豫防上輕視スベカラザルノ事項ニ

屬ス即チ犬稅ヲ高メ或ハ犬ニ口籠ヲ箝セシムルノ制度ノ如キ其効大ナルモノアラシ。

既ニ發病セル狂犬病ノ治療ハ一ニ對症的ニシテ抱水「クロラール」「モルヒネ」「クロ、フオルム」等ヲ與フルノ外施スニ術ナシ。免疫血清モ亦効無シ。

### 第二十四 鼠咬病 Rattenbisskrankheit.

**原因** 本症ハ鼠ノ咬傷ニヨリテ惹起セラル、モノニシテ其病原體ハ尙ホ闡明セラル、ニ至ラズ。緒方博士ハ本病患者ノ血液中ヨリ一種ノ「スピロツト」ヲ發見セリ。

本病ハ鼠ノ咬傷ヲ受ケタル凡テノ場合ニ於テ現ハル、モノニアラズシテ其多クハ憤怒セル鼠ニヨリテ咬傷ヲ被レル場合ニ於テ之ヲ見ルモノ、如シ。

**症候** 其潜伏期ハ不定ニシテ早キハ數時間ナルコトアルモ遲キトキハ數週乃至數月ニ亘ルコトアリ。最初ノ咬傷ハ多クハ短時日ニシテ治癒スルヲ常トス其レヨリ前記ノ潜伏期ヲ經テ發病スルヤ卒然惡感、戰慄、頭痛、全身倦怠等ヲ伴フテ發熱シ來リ同時ニ既ニ治癒ニ向ヒル咬傷部ノ炎症ヲ起シ潮紅腫脹及ビ疼痛ヲ現

ハシ時アリテ浮腫ヲ來シ尙ホ水疱ヲ形成シ壞疽ヲ現ハスコトアリ。其他該部ニ接續セル淋巴管乃至淋巴腺ノ炎症ヲ起シ來ルヲ見ル。

熱候ハ發病ノ始メニ於テ高熱三十九度—四十度ヲ起シ次テ不正ノ弛張乃至間歇性熱候ヲ示スモ一定時期ヲ經過スルトキハ固有ノ熱型ヲ現ハシ來ル即チ一定(二兩日乃至一週日)ノ無熱期ヲ經テ再ビ熱發作ヲ起シ突如三十九度乃至四十度ニ上昇シ同時ニ全身諸所ニ圓形若クハ不正形ノ紅斑ヲ現ハシ稀ニ丘疹ヲ見ルコトアリ。該高熱ハ一日乃至兩三日間稽留セル後脱汗ヲ伴フテ俄然分利シ常溫ニ復歸ス。此ノ如キ發作ハ尙ホ數次其反覆襲來ヲ見ル。

重症ニ際シテハ尙ホ筋痛若クハ關節痛ヲ訴ヒ又運動及ビ知覺ノ障礙ヲ來シ時アリテ譫妄昏睡虚脱等ヲ起スコトアリ。

診斷 鼠ノ咬傷ヲ受ケタル既往症固有ナル間歇熱皮膚ノ發疹等ニヨリテ診定スベシ。

療法 「サルプルサン」ノ筋肉内若クハ靜脈内注射ヲ行フベシ、多クノ場合ニ於テハ一回ノ注射ニヨリテ克ク効ヲ見ルト云フ。其他「キニーネ」「アンチピリン」「ザリチール」酸製劑亞砒酸等用ヒラレシト雖モ其効現著ナラズ。

(附) 傳染病豫防及消毒ニ關スル諸法令

傳染病豫防法(明治三十年三月法律第三六號)

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺赤痢腸窒扶私痘瘡發疹窒扶私猩紅熱實布埜利亞(格魯布)及「ベスト」ヲ謂フ。

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス。

第二條 傳染病流行シ若クハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此法律ノ全部若クハ一部ヲ適用スルコトヲ得。

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若クハ死體所在地ノ警察官吏市町村長區長戶長檢疫委員若クハ豫防委員ニ届出ツヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ。

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若クハ其死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若クハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其所在地ノ警察官吏市町村長區長戶長檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ツヘシ。

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若クハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校、病院、製造所又ハ船舶會社各種事務所、貸席、興行場其他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理人トス。

第五條 傳染病患者アリタル家其他傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)。

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ二項削除)。

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其他傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病者傳染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得(三十八年三月法律五十五號ヲ以テ改正)。

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ヘ移スコトヲ得ス。

第十條 傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス。

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス。

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬ス

ルコトヲ得。

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス。

傳染病患者ノ死體ヲ埋葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若クハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得。

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戸主、首長、管理人又ハ代理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

第十五條 傳染病流行シ若クハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條市町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス。

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス。

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入及器具藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ。

第十六條ノ二 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院隔離病舎隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ。

傳染病院隔離病舎隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム。

第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得。

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若クハ其船舶汽車中乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗組マシムルコトヲ得。

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染病患者若クハ病毒感染ノ

疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若クハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得。

一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

二 市街村落ノ全部若クハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

三 祭禮供養興行集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若クハ禁止スルコト。

四 古著襤褸古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若クハ停止シ又ハ其物件ヲ廢棄スルコト。

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト。

六 汽車船舶製造所若クハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

七 清潔方法消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸上水下水溝渠芥溜厠圍ノ新設改築變更若クハ廢止ヲ命シ又ハ其使用ヲ停止スルコト。

八 一定ノ場所ノ漁撈游泳又ハ其水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若クハ停止スル

コト。

九 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。

第十九條ノ二 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ。

手當金交付竝ニ手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(三十八年第五十六號ヲ以テ本條追加)。

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ。

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若クハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此法律ニ準シ各其所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ。

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス。

- 一 豫防委員ニ關スル諸費。
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費。
- 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員竝豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費。

四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費。

五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救治料、弔祭料。

六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲メ又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

七 市町村ニ於テ發見セル傳染病貧民患者竝死者ニ關スル諸費。

八 市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。

九 第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。

十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)。其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費。

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス。

一 第十八條ニ關スル諸費(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)。其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防方法ニ關スル諸費。

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法、消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救助ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得。

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得。

**第二十四條** 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ。

**第二十五條** 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモノトス。

**第二十六條** 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該官吏ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ期限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得。

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス(三十八年三月法律第五六號ヲ以テ改正)。

**第二十七條** 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若クハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ルトキ又ハ必要ノ期限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス(三十八年三月法律第五六號ヲ以テ改正)。

**第二十八條** 第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得。

**第二十九條** 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期間内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス。

**第三十條** 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス。

**第三十一條** 第四條第五條第九條第十條第十一條第一項第十二條ニ違背シタル者交通遮斷ヲ犯シタル者當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若クハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若クハ其届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十八年三月法律第五六號ヲ以テ改正)。

附 則

**第三十二條** 此ノ法律中ノ規定ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

**第三十三條** 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル。

**第三十四條** 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

**第三十五條** 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條

ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條

明治三十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス。

附 則

(明治三十八年三月法律第五十六號)

本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス。

傳染病豫防法施行規則 (明治三十年五月内 務省令第一一號)

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ又傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ内務大臣ニ申報スヘシ但シ前段ノ場合ニ於テハ隣接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ。

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長以下之ニ做フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ)又ハ防豫委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但シ町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告スヘシ(四十一年五月省令八號)。

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ。

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染

病患者死者其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但シ警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府ハ警視廳及府)ニ報告スヘシ(三十八年六月省令一四號)。

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコト得。

第四條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其ノ他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ「ベスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ(三十八年六月省令一四號改正)。

第五條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ(三十八年六月省令一四號改正)。

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列刺赤痢發疹窒扶私(スト)ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得(三十八年六月省令一四號改正)。

一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其家ノ交通ヲ遮斷スルコト。

二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル者ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通

ヲ遮斷スルコト。

三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其他適當ノ場所ニ隔離スルコト。

虎列刺赤痢

滿五日間

發疹室扶私

滿七日間

「ベスト」

滿十日間

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト。傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事(東京府ハ)ノ命アル場合ニ限ル。

市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ従事スヘシ。

第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戸長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ。

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ。

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ。

三 傳染病豫防法第十一條第二條ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ。

第八條 傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ従事スヘシ。

第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證票ハ左ノ如シ。

三寸

木札  
又ハ  
厚紙  
面寸

傳染病豫防吏員之證

裏面

官廳  
公  
印

第十條 府縣知事(東京府ハ)警視總監(東京府ハ)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得(三十八年六月省令一四號改正)。

第十一條 府縣知事(東京府ハ)警視總監(東京府ハ)傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規定ヲ準用ス。

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徵收スルコトヲ得其金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ。

第十三條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長

傳染病豫防法

一二五七



區長戶長又豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ從事スヘシ。

前項ノ場合ニ於テ市町村ハ必要ナル人夫器具藥品等ヲ供給シ又其費用ヲ支出スヘシ。

**第十四條** 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ設備セシムルコトヲ得。

**第十五條** 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書ノ)及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ傳染病豫防法又ハ此規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ。

東京市京都市大坂市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得。

**第十六條** 傳染病豫防法又ハ此規則ノ規程ニシテ其準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム。

**第十七條** 傳染病豫防法又ハ此規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知事之ヲ定ム。

島地ニ關シ此規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得。

清潔方法及消毒法 (明治三十年五月內 務省令第十三號)

第一章 清潔方法

**第一條** 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病毒傳染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ。
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ燒却スヘシ。
- 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流臺所流便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ。
- 四 「ベスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏天井羽目板間床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ(三十八年六月省令一七號改正)。
- 五 傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ(三十八年六月省令一七號追加)。
- 第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥生石灰末若クハ石灰ヲ投シタル後浚滌スヘシ。
- 第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚滌ヲ爲ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス。
- 第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸ヒシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス。

第二章 消毒方法

**第五條** 消毒方法ハ左ノ四種トス。

清潔方法及消毒方法

一 燒却

二 蒸汽消毒

三 煮沸消毒

四 藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ。

一 傳染病患者若クハ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシテ甚シク病者ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ。

二 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物及塵芥動物ノ死體等(三十八年六月省令一七號改正)。

第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ。

一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類。

二 硝子器、陶器、磁器其ノ他鑲製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ。

第八條 蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス。

一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品、護謨附品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸汽消毒ヲ避クヘシ。

二 被服類ニ蒸汽消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣囊中ヲ索シ彈丸、火藥爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ。

三 蒸汽消毒ハ流通蒸汽ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百

度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ。

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸汽消毒ニ適スルモノニ同シ。

煮沸消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ(三十八年六月省令一七號改正)。

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑並其ノ用法ハ左ノ如シ。

一 石炭酸水(二十倍結晶石炭酸五分、酸一分、水九十四分)。

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス、但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス。

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス、但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ。

一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ。

二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ。

三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ。

四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ六時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ(三十八年六月省令一七號改正)。

一ノ二 「クレゾール」水(六分、水九十四分)、(三十八年六月省令一七號追加)。

「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液一分ニ定量ノ水ヲ加フヘシ。

「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及應用ハ石炭酸水ニ準スヘシ。

二 昇汞水(千倍)昇汞一分、鹽酸十分、(三十八年六月省)水九百八十九分、(令一七號追加)。

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ。

昇汞水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カン爲メ凡十萬分一「スカレット」又ハ「ゾイレフ」ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス、但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス、昇汞水ハ陶器硝子木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス、飲食用器具玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス、手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ。

三

生石灰(少量)水ヲ灌ケハ熱ヲ(三十八年六月省)發シテ崩壞スルモノ、(令一七號改正)。

生石灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ)。

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其他ノ排泄物溝渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分ノ一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ。

石灰乳(十倍)生石灰一分、水九分。

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上トス、但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス、普通石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ。

四

格魯兒石灰水(二十倍)格魯兒石灰五分、水九十五分。

格魯兒水ノ應用竝用量ハ石灰乳ニ同シ、但用ニ臨ミテ製スヘシ。

五

加里石鹼又ハ綠石鹼(三十八年六月省)令一七號改正)。

加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要ス。

六

「フォームアルデヒド」(三十八年六月省)令一七號改正)。

「フォームアルデヒド」ハ「フォームリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ。

「フォームアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ。

- 一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ室内又ハ土藏造洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス。
- 二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォームリン」四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フォームアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ。

「フォームアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ヒルコトヲ得。

- 一 土藏造洋風建物、船舶、汽車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ。

清潔方法及消毒方法

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其他ノ物件ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ。

第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ。

第一 患者。

傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ場合ニ依リテ溫濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ケナシ。

第二 死體(三十八年六月省令一七號改正)。

傳染病ノ死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ被服ニ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若クハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ填ツヘシ。

第三 看病人病家ノ家人其ノ他病者ノ接觸シタル者。

看病人病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者死體排泄物ノ運搬等病者ニ接觸シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ。

第四 患者死體等ノ運搬器。

傳染病ノ患者死體等ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ。

第五 便所芥溜溝渠等。

傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池肥料溜等ニハ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタ

ル後ニ直ニ使用シ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得。

病者ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ消毒スヘシ。

病者ニ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ其ノ塵芥ハ燒却スヘシ。

病者ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石灰ヲ灌クヘシ。

第六 衣服器具敷物等(三十八年六月省令一七號追加)。

傳染病患者ノ著用セル衣服臥具並其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他病者汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ。

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ加里石鹼又ハ綠石鹼(毛皮ニハ避クヘシ)ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ若クハ之ヲ撒布シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ用フヘシ。

第五條ニ掲ケタル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ。

第七 家屋(三十八年六月省令一七號追加)。

患者ノ居室其ノ他傳染病者ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スヘシ但土藏洋風建物等密閉シ得ヘキ室内ニハ「フォルムアルデヒド」ヲ用ヒルコトヲ得。

消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス。

第七ノ二 井戸水槽等(三十八年六月省令第一七號追加)

傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸水槽等ニハ水量五十分一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上放置シ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ。

第八 汽車。

傳染病患者若クハ死體アリタル汽車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スヘシ。

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ。

第九 船舶。

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭適宜處置スヘシ。

船底水ニハ其ノ容量二百分一ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後汲出サシムヘシ。

學校傳染病豫防及消毒法

(明治三十一年九月二十日八日文科省令第二十號)

其一 豫防法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スベキ傳染病ノ種類左ノ如シ。

第一類

甲 痘瘡及假痘 實布埤利亞 猩紅熱 發疹室扶斯 べスト

乙 百日咳 麻疹 流行性感冒 流行性耳下腺炎 風疹 水痘 肺結核 癩病

第二類

赤痢 虎列刺 腸室扶斯

第三類

傳染性皮膚病 傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコトヲ

得ス。

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス。

第三條

第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依テ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス。

第四條

職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者屍體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ爲置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ

學校傳染病豫防消毒法

得ス。

**第五條** 教員舎監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスヘシ。

**第六條** 學校内學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一部ヲ閉鎖スヘシ。

**第七條** 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スヘシ第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ。

**第八條** 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ツヘシ。

**第九條** 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其舎室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スヘシ。

其二 消毒方法

**第十條** 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體排泄物

又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ。

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圓房其他障壁牀疊建具寢臺器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ。

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰又ハ木灰汁ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルヘシ。

三 食器被服寢具等ハ煮沸又ハ蒸汽消毒ニ附スヘシ。

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スヘシ。

五 前各項ノ消毒ニ適セサル者ハ之ヲ刷掃シ數日間日光ニ曝スヘシ

**第十一條** 消毒ニ供スル藥劑並其應用ハ左ノ如シ。

一 石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ。本品ハ屍體吐瀉物其他ノ排泄物器具居室手足等ノ消毒ニ用フ又衣類ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用フヘシ。

二 生石灰末生石灰ニ少量ノ水ヲ灌キ崩壞セシメタルモノ(但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ)。

本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ

又溝渠、芥溜、床下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳(十倍)(生石灰一分ニ水九分ヲ攪拌混和シタルモノ)。

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ五分ノ一ヲ用フ

木灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物、赤痢病患者、

腸窒扶斯患者ノ排泄物ノ消毒ニ用フルコトヲ得其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ五分ノ

一トス、灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ、

其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ同容量トス、但石炭灰、藥灰ハ木灰ト同一ノ効ナシトス。

三 格魯兒石灰水(二十倍)(格魯兒石灰五分ニ水九十五分ヲ攪拌混和セルモノ)格魯兒

石灰水ノ應用竝用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ。

附 則

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス。

### 第八編 皮膚疾患 Krankheiten der Haut.

#### 第一 紅斑 Erythema.

紅斑ト稱スルハ皮膚ノ大小種々ナル部ニ亘リテ現ハル、炎症性潮紅ニシテ多  
少ノ腫脹ヲ伴フヲ見ル。

**原因** ハ多樣ニシテ顔面、項部、手腕等ノ如ク被蓋セラレザル部ニ受クル日光、  
直射、硬固ナル衣袖ニヨル刺戟、尿便、其他ノ不潔物ニヨル刺戟等ハ屢々紅斑ヲ惹起  
スルヲ見ル。其他膿疱疹、濕疹、水疱、痘疱等ヨリ炎症ノ近接皮膚ニ傳播スルニヨリ  
テモ紅斑ヲ起シ、或ハ又諸種ノ傳染病例ヘバ腸窒扶斯、猩紅熱、麻疹等ノ經過中及ビ  
食傷ニ際シテ一種不明ノ内因ニヨリテ現ハル、ヲ見ル。

**症候** 紅斑ハ種々ノ皮膚部ニ於テ大小種々ナル形狀ヲ以テ現ハレ其紅色ハ  
平等ニシテ甚ダシク鋭敏ナラズ。而シテ其附近ニ於ケル淋巴腺ノ腫脹ヲ惹起ス  
ルコトナシ。全身症狀ハ通例甚ダシク障礙セララル、コトナシ、稀ニ紅斑ノ發生ニ  
際シ發熱、頻脈、食欲不振等ヲ起シ來ルコトアルモ疹ノ發生終ヲ告グルト共ニ退消  
スルヲ見ル。

紅斑ニヨル潮紅腫脹ハ通例直ニ消散シ其後暫時ノ間輕キ痒感ヲ起シ或ハ又落屑ヲ來スコトアリ。

**療法** 日光若クハ他ノ刺戟ニヨリテ發生セル紅斑ハ其原因ヲ除去スレバ長時間ヲ經ズシテ治癒スベシ。膿疱若クハ痘疱ニヨルモノハ特ニ加療スルナキモ原病ノ治癒ト共ニ消失スベシ。食傷ニヨルモノハ下劑(蓖麻子油小兒散等)ヲ投與シ且ツ合理的の食餌ヲ取ラシムルニヨリテ治癒スベシ。

### 第一 多形滲出性紅斑 Erythema exsudativum multiforme.

本病ハ深紅色乃至帶青紅色ヲ呈スル小丘疹ノ左右對稱部ニ現ハレ來ルモノニシテ好デ發生スルハ手背及ビ足背ナリト雖モ下腿前膊等ニモ現ハレ稀ニ又軀幹頸部頭部等ニモ發現スルコトアリ。本症ニ於ケル紅斑ハ種々ノ大サ及ビ形態ヲ現ハシ時アリテ其中心ニ水泡若クハ膿疱ヲ生ジ或ハ小水泡ノ紅斑ヲ圍繞シテ發生スルコトアリ(虹彩様水泡疹 Herpes iris) 其他紅斑ノ中央ハ既ニ褪色セルニ周圍ニ於テハ尙熾ナレバ所謂輪狀紅斑

Erythema annulare ト稱セラレ又其ノ地圖様ニ蔓延セルハ地圖狀紅斑 Erythema figuratum ト名ケラル。全身症狀ハ多ク著シキ障礙ヲ被ルコトナク唯僅ニ搔痒灼感等ヲ訴フルニ過ギザルモ稀ニ發疹ニ先チテ發熱倦怠等ヲ現ハシ尙ホ又發疹後僂麻質斯性疼痛關節炎神經痛心内膜炎脾腫蛋白尿等ヲ起シ來ルコトアリ。

本病ノ經過ハ單純ニシテ併發症ナキモノハ數日ニシテ終ヲ告ルモノナリト雖モ再燃ノ甚シキ場合ニ在リテハ數週ニ互ルコト少ナカラズ而シテカ、ル場合ニハ小兒ハ著シク衰憊ヲ來スヲ見ル。其他所謂慢性症ニ在リテハ荏苒彌久シ比較的長キ經過ヲ取ルモ患兒ノ衰脫ハ甚シカラザルヲ常トス。

**療法** 靜臥ヲ命ジ局處ニハ冷罨法殊ニ鉛糖水罨法ヲ施シ水泡形成ニハ撒布粉ヲ處シ僂麻質斯様疼痛ニハ「ザリチール」酸「ナトリウム」若クハ「アンチピリン」ヲ投與スベシ。

### 第二 結節性紅斑 Erythema nodosum.

**原因** 其病原ハ尙ホ未ダ不明ニ屬スト雖モ一種傳染性病原ニ基キ僂麻質斯性疾患ニ親密ナル關係ヲ有スベキモノナルコトハ諸家ノ等シク認ル所ナリ。

多形滲出性紅斑 結節性紅斑



本病ハ春秋二季ニ於テ多ク男兒ニ比シテ女兒ヲ侵スコト多シト云フ。

**症候**

本病ハ通例數日間持續スル倦怠、神思不快、食欲不振等ノ前驅症ヲ以テ初マリ、次デ固有ノ病徵トシテ豌豆大乃至榛實大ノ結節狀發疹ヲ現ハシ來ル。該疹ノ好發部位ハ下腿ニシテ殊ニ脛骨櫛ノ兩側ニ現ハレ來ルコト多シ、其他上腿、上膊又稀ニ前膊、足背、顔面、軀幹等ニモ發現スルコトアリ。疹ハ皮膚及ビ皮下組織ニ互リテ坐シ、半球狀ヲ呈シ、皮下ニ移動シ、難ク硬固ニシテ壓迫ニ對シテ著シク鋭敏ニ、時アリテ自發性疼痛ヲ現ハス。其發生個數ハ時アリテ種々ノ差異ヲ示シ、或ハ僅ニ數個ニ過ギザルコトアリ、或ハ數十個ニ達スルコトアリ。其色ハ最初紅色ヲ呈スルモ漸次帶青色、綠色、黃色等ニ變色シ、來リ、遂ニ五―七日ニシテ尙ホ一週日ハ皮膚結節ヲ識認シ得ベキナリ。

本病ニ在リテモ全身症狀多少障礙セラレ、關節痛、胸痛等ヲ來シ、又心内膜炎、心外膜炎等ヲ起スコトアリ。又本病ハ他ノ僂麻質斯性疾患ノ如ク數回同一小兒ニ發現スルコト少ナカラズ。

**豫後**

單純ナル病症ハ常ニ可良ナリト雖モ、荏苒彌久セル經過ヲ取り、或ハ出血ヲ伴フモノ(所謂惡性症 *Erythema nodosum malignum*)ニ在リテハ疑ハシ。

**療法**

靜臥ヲ命ジ、滋養強壯性食餌ヲ給シ、局處ノ腫脹、疼痛ニ對シテハ醋酸藥土水(其一食匙ヲ水半リ―テル)ニ溶解ス(若クハ鉛糖水ノ用法ヲ施スベシ。藥劑ハサリチール酸ナトリウムヲ服用セシムベシ)。

第四 丹毒 *Erysipelas*, Rose.

**原因**

本病ハ丹毒連鎖球菌 *Streptokokkus erysipelatis* (Fehleisen) ノ侵入ニヨリテ惹起セラレ、局處ニ急性皮膚炎ヲ起ス所ノ急性觸接傳染病ニシテ、該病原菌ノ侵入門戶トナルハ皮膚ノ損傷、剝脫、濕疹、糜爛等ナリ、就中小兒ニ在リテハ種痘時ノ切創、痘疱、臍創等ノ丹毒菌侵入ノ機ヲ與フルコト屢々ナリ。

**症候**

本病ハ其感染後半―一日半ノ潜伏期、其間毫モ症狀ヲ呈スルコトナシ、ヲ經テ固有ノ局所症狀ヲ現ハシ來ル、即チ發症局部ニ於ケル皮膚ハ他ノ健康部ヨリ明ニ區劃セラレテ強キ潮紅及ビ緊張性浸潤ヲ來シ之ヲ望ムニ滑澤ニシテ之ニ觸ルレバ溫熱ヲ感ジ且ツ壓迫ニ對シテ頗ル鋭敏ナリ。

前記ノ局處症狀ト共ニ全身症狀著シク障礙セラレ、患兒ハ食思不振、不安、頭痛、惡感、發熱等ヲ來シ、熱ハ數時間ニシテ三十九度―四十度ニ達シ、脈搏ハ著シク頻數ト

ナリ、呼吸亦促進シ、煩渴ヲ來シ、尿利減少ス。

局處ニ於ケル皮膚ノ潮紅及ビ腫脹ハ漸次其歩ヲ進メテ周圍ニ擴大シ來リ或ハ又一方ニ向フテ進行スルコトアリ。而シテ皮下組織ノ鬆疎ナル部(眼瞼、陰囊、陰唇等)ニ於テハ多少強度ノ浮腫ヲ現ハシ來ルヲ見ル。其他時アリテ丹毒疹上ニ水泡ノ發生ヲ見ルコトアリ(大水疱性丹毒。Erysipelas bullosum)。カクテ炎症性病機ノ周圍ニ進行シ來ルヤ其初發部ニ於テハ漸次潮紅及腫脹ノ減退ヲ來シ遂ニ全ク消失シ後皮膚ノ落屑ヲ現ハスヲ見ル。サレド小兒ニ在リテハ屢々炎症性病機ノ一所ヨリ他所ニ(例ヘバ四肢ヨリ軀幹ニ又ハ軀幹ヨリ四肢ニ或ハ頭部ヨリ胸部、腹部等ニ)移行蔓延シ時アリテ既ニ一回罹患治癒セル部ニ再ビ蔓延シ來ルガ如キコトアリ(遊走性丹毒。Erysipelas migrans)。

局處症狀ノ強弱ニ伴フテ全身症狀ハ一進一退シ局處ノ潮紅、腫脹消散シ來レバ熱候不安、衰脫等モ減退恢復スルニ至ル。

カクテ本病ハ年長兒ニ在リテハ通例六―十二日ノ經過ヲ以テ治癒ニ向フト雖モ、幼齡兒殊ニ初生兒ニ在リテハ其轉歸不幸ナルコト多ク或ハ衰脫劇烈ナル下痢、肺炎等ニヨリテ斃レ、或ハ病毒ノ腹膜、腦膜、皮下織化膿若クハ壞疽ヲ起ス等ニ侵入

シ來ルニヨリテ死ス。

**豫後** 罹患部ノ狭小ナルトキハ其豫後多ク可良ナリト雖モ急速大部ニ擴張セル場合重篤ナル併發症(下痢、肺炎、腦膜炎、腹膜炎)ノ發現セル場合等ニ在リテハ其豫後疑ハシトス。其他幼齡兒ハ年長兒ニ比シテ其豫後危險ニ遊走性丹毒ハ限局性丹毒ニ比シテ其豫後不良ナリトス。

**診斷** 前記ノ症狀ニヨリテ診定スベシ。紅斑トハ高度ノ潮紅周圍トノ境界劃然タルコト、全身症狀ノ著シキ障礙等ニヨリテ鑑別スベシ。

**療法** 豫防トシテ諸種ノ創傷(殊ニ臍創)、皮膚ノ剝脫、濕疹等凡ベテ病的齒牙ノ侵入シ得ベキ門戸ハ防腐的處置ニヨリ速ニ治癒セシムルニ努ムベシ。又丹毒患者ノ發生セルトキハ速ニ之ヲ隔離シ其傳播ヲ防禦セザルベカラズ。

食餌ハ滋養強壯性ノモノヲ選ビテ與ヘ又時宜ニヨリ咖啡、葡萄酒、コンニヤク、エーテル、樟腦等ヲ投與スベク。高熱ニ對シテハ頭部ニ氷嚢ヲ貼置シ「キニーネ」ヲ試ムベシ。膿瘍ノ形成ヲ認メバ直ニ之ヲ切開スベシ。

丹毒ニ對シテハ局所ニ酒精ノ罨法ヲ施スベシ、但シ豫メ「リゾール」(1%)若クハ硼酸溶液(2―3%)ニテ局所ヲ清洗シ、次デ純酒精ニ浸潤セル數層ノ殺菌綿紗ニテ之

ヲ被蓋褻法シ毎二時間ニ一回交換スベシ。五〇%ノ「イヒチオール」軟膏「イヒチオール」ワゼリン各等量混和ノ塗擦法モ奨推スベシ、即チ先ヅ局所ヲ石鹼、酒精及ビ「エーテル」ニテ注意シテ清洗シ、次テ「ザリチール」酸液(一%)ニテ浸潤セル「コンプレツセ」ニテ約二時間被包シ置キ、然ル後前記「イヒチオール」軟膏ヲ擦入スベシ。  
 其他一〇—一五%ノ「イヒチオール」コロヂウムヲ罹患部及ビ其附近ニ一日數回塗布スルモ可ナリ。或ハ又醋酸アルミニウム液ノ冷褻法、若クハ硼酸水昇汞水(一千倍)ノ褻法、硼酸ワゼリン等ヲ用フルモアリ。

ウエルフレル Wölfler 氏ハ絆創膏ノ細長片ヲ作り之ヲ罹患部ニ近キ健康部位ニ貼シ以テ其部ニ於ケル皮膚ノ緊張ヲ増加シ以テ丹毒ノ蔓延ヲ防グノ法ヲ賞推セリ。ヨッホマン Jochmann 氏ハ彈力ゴム帶ヲ罹患部ノ上方ニ置クノ法ヲ行ヒ效果ヲ得タリト云フ、即チ四肢ノ丹毒ニ際シテハ罹患肢ノ上部ニ「ゴム」帶ヲ施シ、顔面ノ丹毒ニ在リテハ頸部ニ「ゴム」帶ヲ纏絡(此場合ニハ頭上ニ水囊ヲ貼シ頭部ノ熱感ヲ去ルベシ)スベシ、蓋シ此法ハ一面皮膚ノ緊張ヲ變ジ一面充血ヲ惹起シ以テ良果ヲ來スモノナルベシ。

リッテル Ritter 氏ハビール氏温箱ヲ用ヒテ熱氣療法(一日二—三回半乃至一時

間施)ヲ施シ效果ヲ得ベシト云ヒヨッホマン氏ハ温箱ノ代リニ「フエー」ン、Föhn(電氣ニヨリテ熱氣ヲ發生セシメ得ルノ装置)ヲ用ヒテ効アリト云フ。

連鎖球菌血清ノ效果ニ對シテハ尙未ダ斷案ヲ下シ難シ、須ク之ヲ試用スベシ我ガ傳染病研究所ニテハ尙丹毒治療液テフモノヲ發賣セリ。

我傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル所ノ連鎖球菌血清ハ數種ノ連鎖球菌「ブイヨン」培養ヲ以テ免疫シタル馬血清ニシテ一壺ノ内容四〇〇㊦㊦ナリ。

本品ヲ治療ノ目的ニ注射セント欲セバ一回四〇〇㊦㊦之ハ大人量ナレバ小兒ニハ適宜減量セザルベカラズ)ヲ胸側若クハ大腿内側ノ皮下ニ注射スベシ、但シ症狀ノ劇甚ナルモノニ在リテハ反覆シテ注射スルヲ要ス。

丹毒治療液ハ一壺ノ内容五〇㊦㊦ニシテ一回ノ注射量ハ一〇—二〇㊦㊦ニシテ一日一乃至二回注射スベシトナリ。

歐洲ニ於テ發賣セラル、血清中特ニ聲價アルハ次ノ如シ。

マルモレツク血清 Marmorekserum (Pasteur's Institut).

アロンゾン氏連鎖球菌血清 Aronson's Streptokokkenserum (Chem. Fabrik Schering, Berlin).

タアベル氏血清 Tavel's Serum (Schweizerisches Serum-und Impfinstitut, Bern).

メンズエル氏連鎖球菌血清 Menzer's Streptokokkenserum E. Merck, Darmstadt).  
マイヤールツベル氏血清 Antiseptokokkenserum nach Mayer-Ruppel (Höchster  
Farbwerke).

### 第五 糜爛 Interigo.

糜爛トハ種々ノ外來刺戟ニヨリテ上皮剝脱ヲ來セル状態ニシテ小兒ニ在リテ屢々發現シ來ルヲ見ル。而シテ之ヲ惹起スル外來刺戟ハ種々ニシテ迅速分解シ來ル尿異常酸性ヲ呈スル下痢便異常分解ヲ來セル皮脂等ノ外強剛ナル衣袖又肥滿セル小兒ニ在リテハ皮膚皺襞ノ相對向セル面ノ摩擦ノ如キモ本症ヲ起スノ原因トナル。

**症候** 罹患部ハ紅色乃至暗紅色ヲ呈シ濕潤ヲ現ハシ之ニ觸接スルニ著シキ疼痛ヲ覺フ。而シテ該糜爛面ノ邊緣ニ於テハ屢々溷濁セル内容ヲ有スル小水泡若クハ深紅色ヲ呈スル丘疹ヲ見出し得ベシ。此際若シ糜爛ノ病原トナルベキ刺戟ヲ除去スルヲ得バ甚ダ速ニ新ナル上皮ニテ全面ヲ被蓋シ終ルベシト雖モ刺戟ニシテ依然保存スルアレバ糜爛ハ其廣漠ヲ増シ潰瘍性トナリ或ハ實扶的里様膜

ヲ以テ被ハル、ニ至ルコトアリ。

本病ノ好發部位ハ臀部、上腿ノ後面、頸部ノ皺襞、肘窩鼠蹊部、耳殼ノ後方等ニシテ、本症ニ犯サレタル患兒ハ不安、睡眠不足ヲ來シ又啼泣シ易ク、長ク本症ノ持續スルアラバ屢々小兒ノ體力衰脱ヲ起シ來ルベシ。

**療法** 豫防トシテ幼齡兒ニ於テハ凡テ皮膚ヲ障害スベキガ如キ刺戟ヲ遠クル様努メ、頻回入浴セシメテ、身體ヲ清洗シ、殊ニ頸部、耳殼ノ後方等ニ於ケル皮脂ヲ注意シテ除去シ、常ニ清潔ニシテ乾燥シ且ツ柔軟ナル衣服ヲ著用セシムル様注意スベシ。

糜爛ノ既ニ發生セル場合ニ在リテモ先ヅ其原因トナルベキ刺戟ヲ除キ且ツ罹患部ヲ成ルベク清潔乾燥ニ保ツベキハ極メテ緊要ナリトス。次デ局所療法トシテ新鮮ニシテ濕潤性ナル病症ニ對シテハ醋酸アルミニウム液(二%)ノ罨法ヲ施シ、潮紅及ビ腫脹ノ稍々退行セルモノニ在リテハ、毎浴後(溫浴若クハ藥浴)糠糝浴若クハ過マンガン酸カリウム浴(丁寧ニ清拭乾燥セシメ亞鉛華澱粉各等量若クハデアルマトール澱粉各等量ヲ撒布スベシ。又既ニ潰瘍ヲ形成セルモノニ在リテハ、硼酸水ニテ洗滌シタル後硼酸軟膏若クハラッサール氏(バスタ)ヲ貼付スベシ。其他

慢性症ニ於テハ毎日一回硝酸銀液(二%)ヲ塗布スベシ。

## 第六 濕疹 Ekzem.

### 原因

濕疹ハ小兒殊ニ幼齡兒ニ於テ頻發シ來ル所ノ皮膚疾患ニシテ諸種ノ皮膚刺戟ニヨリテ惹起セラル即チ褌法軟膏塗擦搔爬皮膚寄生物強剛ナル衣袖日射水浴等ニヨリ或ハ又皮膚乃至粘膜分泌物並ニ糞尿等ノ分解ニヨリテ誘起セラレ其他皮膚攝生ノ不全不良ナル衛生的並ニ營養狀態等モ本症ノ發生ニ多少ノ關係ヲ有シ又滲出性素質尙僂病脂肪過多等ノ體質異常ニ罹レル小兒ハ屢々濕疹ヲ起シ來ルヲ見ル。

### 症候

濕疹ハ一種ノ皮膚炎ニシテ最初ニ於テ許多ノ少ナル(粟粒大乃至帽針頭大)赤色結節ヲ現ハスヲ見ル(丘疹期)又丘疹性濕疹。Stadium papulosum, Ekzema papulosum)次デ之ニ漿液性滲出物ヲ現ハシ來ラバ互ニ相密集セル小水疱ヲ形成スルニ至ル(水疱性濕疹。Ekzema vesiculosum)爾後ノ經過ニ於テ該水疱ノ内容化膿シ(膿疱性濕疹。Ekzema pustulosum s. impetiginosum)或ハ水疱速ニ破潰シ(時アリテ内容化膿後ニ破ル、アリ)滲出液ハ皮膚面ニ出テ爲メニ赤色ヲ呈スル濕潤面ヲ現ハス(濕潤性濕疹)又濕

性濕疹。Ekzema madians, nüssende oder feuchte Ekzem)前記滲出液ハ外氣ニヨリテ乾燥

シ最早ヤ濕潤ヲ呈セザルニ至リ(乾性濕疹。Trockne Ekzem)次デ痂皮ヲ形成シ(結痂性

濕疹。Ekzema crustosum)或ハ遂ニ落屑ヲ現ハスニ至ル(落屑性濕疹。Ekzema squamosum)。

濕疹ハ極メテ急性ニ現ハレ來ルコトアリ(急性濕疹。Ekzema acutum)即チ先ヅ一定ノ皮膚部ニ於テ紅斑様潮紅及ビ輕キ腫脹ヲ起シ來リ次デ其面上ニ相密集セル粟粒大ノ小水疱現ハレ年長兒ハ罹患部ニ於テ灼感及ビ痒感ヲ訴ヒ時アリテ發熱食慾不振ヲ來シ罹患部ノ大ナルトキハ不安不眠等ヲ現ハシ來ル。

爾後ノ經過ハ種々ニシテ或ハ數日ニシテ潮紅腫脹退消シ痂皮形成ノ下ニ新上皮膚形成シ來リ治癒ニ趣キ或ハ罹患部ノ中央ハ日ヲ追フテ輕快シ行クニ拘ラズ濕疹面ハ漸次周圍ニ向フテ擴大シ行クアリ或ハ皮膚ノ炎症症狀ハ退消スルアルモ發疹ハ慢性トナリ此處彼處ニ於テ久時乾性若クハ濕性濕疹ヲ殘遺スルヲ見ルアリ。

他ノ多クノ場合ニ在リテハカク急性ニ發症スルコトナク稍緩徐ニシテ罹患部ハ等シク潮紅及ビ密集セル小水疱ヲ現ハスモ潮紅甚ダ強カラズシテ灼感及ビ痒感亦甚ダ弱ク或ハ殆ンド之ヲ訴ヘザルアリ。カクテ爾後ノ經過ハ慢性トナルヲ

常トスルモ時アリテ偶發性刺戟ニヨリ急性炎症ヲ現ハシ來ルコトアリ。又其罹患部ハ種々ナル病像ヲ呈シ或ハ乾性或ハ濕性濕疹ノ像ヲ呈スルヲ見ル。

小兒ニ現ハル、濕疹中最モ難癒性ナルハ頭部及ビ顔面ノ濕疹。Ekzema capitis et facieiニシテ多クハ耳後部、顱頂部等ニ初發シ、次デ濕潤性トナリ、且ツ汚垢及ビ頭髮ト共ニ不快ノ臭氣ヲ放ツ、褐色痂皮ヲ形成シ、該痂皮ヲ剝去スレバ濕潤セル化膿面ヲ現ハスベク亦多クハ痂皮ノ四圍若クハ其罅隙ヨリ膿性滲出液ノ漏出スルアルヲ認メ得ベシ。カ、ル濕疹ハ長ク限局シテ狭小部ニ止マルコトアレドモ亦屢々速ニ有髮全頭部ニ蔓延シ、或ハ前額、外耳、顔面等ニ及ボスヲ見ル。罹患部ノ四周ニ於テハ屢々膿胞若クハ癬瘡ヲ現ハシ又項部及ビ耳後ニ於ケル淋巴腺ハ每常多少ノ腫脹ヲ來シ、時アリテ耳前若クハ顎下部淋巴腺ノ腫脹ヲ起スコトアリ。頭部濕疹ハ其經過常ニ慢性ニシテ數週、數月時アリテ年餘ニ互ルコトナキニアラズ、而シテ一旦治癒ニ趣クト雖モ屢々再發ヲ來スヲ見ル。

顔面若クハ頭部ニ於ケル濕疹、又肘窩若クハ膝脛ニ於ケル濕疹ノ時アリテ全身ニ蔓延シ來ルコトアリ(汎發性濕疹。Ekzema universale)。其蔓延スルヤ或ハ甚ダ速ニ或ハ徐々ニ體表面ノ大部ニ瀰蔓シ遺ス所極メテ微小ナルニ至ル。

哺乳兒ニ在リテハ屢々生後一週内ニ於テ所謂乳癬。Crusta lactea oder Milchschorfト名ケラル、濕疹性發疹ヲ來スヲ見ル。本症ハ頭部、前額、頰部、外鼻、上唇、頤部等ヲ犯シ初メ密集セル小水疱及ビ膿泡ヲ生ジ、次テ其部ニ帶褐黃色ノ痂皮ヲ現ハシ來ル。患兒ハ痒感ノ爲メニ不安トナリ睡眠亦妨ダレ屢々患部ヲ搔爬シ、爲メニ膿性塊若クハ血液ヲ以テ被ハレタル眞皮面ヲ現ハスコト多シ。此場合ニ在リテモ隣接淋巴腺(顎下、耳前等)ノ腫脹ヲ起シ來ル。本症モ其經過ハ甚ダ慢性ニシテ一部ノ膿疱ハ痂皮脱落シ治癒シ來ルモ、他所ニ於テ新ナル發疹ヲ起シ來リ、荏苒數月ニ互ルコト少ナカラズ。

濕疹ノ經過中ニ一定ノ急性內科的疾患ノ併發シ來ルヤ濕疹ハ之レガ影響ヲ被リ速ニ退消スルコト多シ、即チ急性腸胃加答兒、毛細氣管枝加答兒、肺炎、腦膜炎等ハ甚ダ速ニ久時猛威ヲ逞フセル濕疹ヲ退消セシムルヲ見ル、サレド是等疾患ノ恢復ニ向フヤ往々一回消失セル水疱、膿疱等ノ再顯ヲ來スコト少ナカラズ。

豫後 一般ニ可良ナリト雖モ其經過慢性ナルコト多ク、又屢々再發ヲ來スコトアルハ豫メ留意セザルベカラズ。

療法 先ヅ其原因トナルベキ外來刺戟ノ存スルアラバ之ヲ除去シ、兼テ一般

状態ニ注意シ、營養及ビ皮膚ノ攝生ニ意ヲ用フルコト緊要ナリ。

營養療法ハ、哺乳過度ナル小兒ノ頭部若クハ顔面ノ濕疹ニ際シテ其効果大ナリトス。即チ自然營養兒ニ在リテハ其哺乳量ヲ減ジ一日ノ哺乳回数ヲ約五回トナシ且ツ哺乳ノ時間ヲ短縮スベシ。或ハ一日中一、二回ハ「バタミル」ヲ飲用セシムベシ。其他脫脂母乳ヲ賞揚スル者アリ。人工營養兒ニ在リテモ哺乳量ヲ減ジ「バタミル」ヲ「マルツツ」ベラ與ヘ或ハ又「フィンケルス」タイン Finkelstein 氏ニ從ヒ次ノ如クシテ牛乳ノ「モルケ」ヲ減量セシメテ與フベシ。

一定量ノ牛乳ニ「ラブ」酸酵素「ベグニン」若クハ「ラブ」エスセンツヲ加ヘテ凝固セシメ其凝固セシ部分即チ「カゼイン」及ビ脂肪ヲ細カナル篩ニヨリテ液分即チ「モルケ」ヨリ分離シ其「モルケ」ニ餾水若クハ燕麥粘漿ヲ加ヘテ五倍ニ稀釋シ之ニ先ニ分離セル「カゼイン」及ビ脂肪ヲ加ヘ尙ホ多少ノ餾水ヲ追加シテ全量ヲ最初ノ量ニ一致セシムベシ。

其他滲出性素質ノ疑アラバ一部乳ニ代ユルニ含水炭素ヲ以テシ早ク混合食ニ移ラシメ且ツ果物、菜類等ヲ與フベシ。

本病ノ局所療法ハ其病症ノ如何ニヨリテ大差アルモノニシテ急性濕疹ノ炎症期罹患皮膚ノ甚シキ潮紅腫脹濕疹皮部ノ強キ濕潤烈シキ搔痒等ヲ現ハス時ニ在

リテハ醋酸アルミニウム液(其三〇〇「リ」テ「ル」ノ水ニ溶解ス)醋酸鉛(其一食匙「リ」テ「ル」ノ水ニ溶解ス)「レゾルチン」(〇五—一%)、硼酸水(三%)等ノ冷罨法ヲ施スベシ。而シテ其炎症ノ多少退行シ來ルヤ濕潤性症ニハ散布粉ヲ適用スベシ。常水ヲ以テハ洗滌若クハ沐浴ハ濕潤性濕疹ニ際シテハ之ヲ禁制スルヲ要ス但シ顔面若クハ頭部濕疹ニ際シテ注意シテ坐浴ヲ取ラシムルハ毫モ妨ゲナシトス。又カ、ル濕性症ニ於テハ糠糝浴若クハ過マンガン酸カリウム浴(該結晶ヲ浴水ノ鮮紅色ヲ呈スル迄加フ)ヲ取ラシメ浴後全身殊ニ罹患部ヲ清淨ナル綿片ニテ丁寧ニ吸水乾燥セシメ厚ク乾燥粉末ヲ撒布スベシ。其他甚シキ糜爛ニ傾ケル病症ニ在リテハ時々(每一—二日ニ一回)硝酸銀水(二—三%)ノ塗布卓効ヲ奏ス。濕疹ノ痒感甚ダシキモノニ於テハ石炭酸(〇五%)「ザリチール」酸(一%)薄荷腦(一%)「ニコカイン」(一%)「モコール」(一%)「アネステジン」等ヲ適宜配合適用スベシ。

處方例〇薄荷腦

〇五

酒精

五〇〇

右混和塗布料(但シ顔面ニハ用フベカラズ)。

濕疹ニシテ既ニ痂皮ヲ現ハシ來レルモノニ在リテハ先ヅ之ヲ除去セザルベカ

濕疹

ラズ、其目的ニハ微温脂肪油(扁桃油)「オレーフ」油(種油等)ヲ用ヒテ結痂ノ緩解スルヲ待チ、鐮子ニテ丁寧ニ痂皮ヲ除却シ、罹患部及ビ其附近ニ於ケル毛髮ハ之ヲ截除若クハ剃去シ、次デ露出セル化膿面ヲ清淨ニシウ「カルソン」氏軟膏、ヘブラ氏軟膏、硼酸軟膏、ラッサール氏「バスタ」等ヲ適用スベシ。

處方例○亞鉛華

- 安息香酸 五〇
- 豚脂 〇五
- 右混和軟膏トナシ外用(ウ「カルソン」氏軟膏) 四五〇

○硼酸

- 黄色「ワゼリン」(「ラノリン」) 一二〇―一五〇
- 右混和軟膏トナス(硼酸軟膏) 一〇〇〇

○「サリチール」酸

- 亞鉛華 一〇―一二〇
- 澱粉 各二五〇
- 黄色「ワゼリン」 五〇〇

(又ハ「ラノリン」  
「オレーフ」油 四〇〇〇  
一〇〇〇)

右混和「バスタ」トナシ外用(ラッサール氏「バスタ」)。

落屑期ニ達セシモノ、若クハ慢性濕疹ニ移行セルモノ、ニ在リテハ、白降汞軟膏、白降汞二〇、「ワゼリン」一八〇(ヘブラ氏軟膏若クハベンチックス氏ノ獎推セル左記ノ軟膏ヲ用フベシ)。

處方例○赤色硫化汞朱

- 昇華硫黃 一〇
- 黄色「ワゼリン」 二四〇
- 「ベルガモット」油 七五〇
- 右混和軟膏トナシ外用 三滴

右混和軟膏トナシ外用。

其他頑固ナル病症ニハ「タール」軟膏若クハ「タール」酒精ヲ適用スベシ、サレド小兒ニ在リテハ、最初極メテ稀薄ナルモノ(一―二%)ヨリ始メテ漸次濃厚(五―一〇%)ナルモノヲ用フルニ至ルヲ要ス、但シ「タール」劑ヲ用フル間ハ常ニ檢尿ヲ怠ルベカラズ。

處方例○木「タール」又樺木「タール」若クハ杜松木「タール」 一〇―一五〇

「オレーフ」油(又亞鉛華軟膏) 一〇〇〇マデ

右混和外用。

○杜松木「タール」 五〇―一〇〇

濕疹



右混和外用。

是等數者ニ比シテ尙ホ強力ナルウ・ルキンソン氏軟膏焦性沒食子酸二—一〇%グリサロピン二—五%等ノ適用ハ(殊ニ顔面濕疹ニ際シ)極メテ周到ナル注意ヲ拂ハザルベカラズ。

濕疹ノ治療ニ際シ尙ホ特ニ注意スベキハ局所搔爬ノ豫防ナリトス蓋シ此搔爬ハ痒感甚シキ場合ニ於テ不知不識ノ間殊ニ夜間ニ於テ起ルモノナレバ患兒ノ爪端ヲ短剪スベキハ勿論手指ヲ患部ニ達セシメザル様適宜繃帶ニテ兩手ヲ兒體ニ固縛スルノ法ヲ講ズベキナリ。

内服ニハ其全身狀態ニ對シテ恰適ナル藥劑ヲ用フルノ外慢性濕疹ニ際シテハ屢々「フォーレル」水ヲ適用スルコトアリ。

處方例〇「フォーレル」水

二〇—五〇滴

單舍利別

二〇〇

餉水

八〇〇

右混和一日三四十五宛。

本症殊ニ其慢性症ニ對シ近時「ラヂウム」ノ照射療法賞用セラレ著々其卓効ヲ現ハスアルヲ見ル。

### 第七 傳染性膿疱疹 Impetigo contagiosa.

**原因** 未ダ確的ニ證明スルニ至ラザルモ傳染性ヲ具ヘ一家内、一校内等ニ流行性ニ現ハル、コトアリ。細菌學的ニハ黃色及ビ白色膿膿葡萄狀菌ヲ膿疱内容中ニ見出し得ラル、コトアリ。

**症候** 本症ニ於テ現ハル、膿疱ハ濕疹ニ於ケル水疱ニ比シテ甚ダ大ニシテ扁豆大乃至豌豆大ノ間ニ昇降シ其内容膿性ヲ呈ス通例俄然皮膚上ニ現ハレ次デ數日ノ經過中ニ其痂皮ハ破潰シ其内容ハ乾涸シ帶褐黃色ノ痂皮ヲ結ブ而シテ十乃至十四日ニシテ該痂皮ハ脱落シ後ニ初メハ帶青紅色ヲ呈スルモ其後ニ至レバ褪色シ去ル斑點ヲ殘遺スルヲ見ル。

本症ニ於ケル膿疱ハ身體ノ一定所ヨリ手指ノ媒介ニヨリテ他所ニ傳染シ或ハ一患兒ヨリ數多ノ健兒ニ傳染ヲ來スコト少ナカラズ。其好發部位ハ顔面ナリト雖モ此他小兒ノ好ンデ手指ヲ運ブノ體部(頭部、手背、前膊、下腿、足等)ニ於テ頻發スル

ヲ見ル。

本症ハ通例其轉歸トシテ甚ダ速ニ全治ヲ見ルモノナレドモ稀ニ腎臟炎ヲ併發シ或ハ敗血性全身傳染ニヨリテ不幸ノ轉歸ヲ取ルコトナキニアラズ。

**療法** 新鮮ナル病症ニハ醋酸アルミニウム液ノ罨法ヲ施シ。陳久症ニシテ結痂セル場合ニハ先ヅ脂肪油ニヨリテ痂皮ヲ除キラッサール氏「バスタ」若クハ白降汞軟膏ヲ外用スベシ。

### 第八 「エックチーマ」大膿疱疹 Ekthyma.

「エックチーマ」ト稱スルハ豌豆大ナル膿疱ノ群集シテ發生シ來ル一種ノ皮膚疾患ニシテ其膿疱ハ赤色曇輪ヲ以テ圍繞セラル、ヲ見ル。而シテ其好發部位ハ上腿及ビ下腿ノ前面及ビ側面足背、手指ノ背面、臀部、頰部等ニシテ通例段進的 *zosteriform* ニ現ハレ、或ハ慢性ニ經過シ結痂シ治癒シタル後多樣ナル癬痕ヲ殘遺スルヲ見ル。

又惡液性「エックチーマ」*Ekthyma cachecticum*ト稱セラル、病症ハ重病後ニ於ケル衰脫兒、營養不給兒、貧血兒等ニ於テ全身ノ皮膚ニ現ハレ來リ、深キ潰瘍ヲ形成スル

ノ傾向ヲ有シ、其治癒後ニ於テハ顯著ナル癬痕ヲ殘遺シ、時アリテ治癒ノ傾向甚ダ僅微ニシテ稀ニ壞疽ニ陥ルコトアルヲ見ル。

**豫後** 單純症ハ其豫後可良。ナリト雖モ惡液性殊ニ其壞疽性症ハ其豫後不良ナリトス。

**療法** 全身ノ營養狀態ヲ考查シ之ニ恰當セル處置ヲ施シ、兼テ濕疹條下ニ記述セル所ニ準ジテ局所療法ヲ行フベシ。

### 第九 大水疱疹、天疱瘡 Pemphigus.

大水疱疹ハ既ニ初生兒ニ於テ急發シ來ルモノ(初生兒大水疱疹)ノ外尙小兒ニ在リテ亞急性ニシテ屢々再發シ來ル皮膚疾患トナリテ現レ來ル。

本症ハ不定ナル間歇時ヲ以テ數次ニ多少弛緩性ナル大水疱ヲ現ハシ、其水疱ハ潮紅セル皮膚面上ニ坐シ、毫モ一定ノ排列ヲ爲スコトナク、且ツ多クハ著シキ全身障礙ヲ來スコトナシ。而シテ該水疱ノ破潰スルヤ最初ハ透明ニシテ後ニ至レバ稍々溷濁セル液ノ漏出スルヲ認ムベシ、カクテ數日ニシテ被膜脱落セバ滑澤ナル潮紅皮膚面ヲ現ハシ來ルヲ見ン。

「エックチーマ」大水疱疹

カ、ル良性症 Pemphigus benignus ニ對シテ所謂惡性症 Pemphigus malignus ト名ケラル、モノアリ、此惡性症ニ於テハ大水疱ノ多數相繼テ發現シ、來リ、發熱、消化不良、其他ノ全身障礙ヲ起シ、患兒ハ速ニ衰脱シ來リ不幸ナル轉歸ヲ取ルコト少ナカラズ。

**療法** 滋養強壯性食餌ヲ給スルト共ニ局所的療法トシテ亞鉛華、デルマトール等ノ撒布、醋酸アルミニウム液(二%)ノ罨法、過マンガン酸カリウム浴、昇汞浴一浴ニ昇汞一〇ヲ加フ等ヲ施スベシ。重症ニシテ瀰久セル場合ニハ「キニーネ」亞砒酸鐵等ヲ内服セシムベシ。

### 第十 匍行疹 Herpes.

匍行疹ハ先ヅ口唇匍行疹 Herpes labialis トナリテ諸種ノ熱性病例之ハ肺炎、胃加答兒、腦膜炎、流行性感冒等ニ際シテ現ハレ或ハ帶狀匍行疹 Herpes zoster トナリテ肋間神經若クハ三叉神經、頷等ニ於テ偏側性ニ現ハル、コトアリ、但シ小兒ニ在リテハ大人ノ帶狀匍行疹ニ於ケルガ如キ劇甚ナル神經痛ヲ伴フコトハ稀有ニ屬スルヲ見ル。

**療法** 亞鉛華、硼酸、デルマトール等ノ撒布、若クハ醋酸アルミニウムノ罨法ヲ施シ、糜爛ノ發生スルアラバ軟膏ヲ適用スベシ。

### 第十一 蕁麻疹 Urticaria, Nesselsucht.

蕁麻疹ハ兒齡ニ於テ頻發シ來ル皮膚疾患ノ一ニシテ其原因トナルハ諸種ノ皮膚刺戟(種痘、昆蟲ノ刺傷)、消化障礙、自家中毒、一定ノ藥劑(「キニーネ」「サントニーネ」)「バ」ルサム劑、血清、食品、蟹、蝦、蓬蘽等、腸寄生蟲、精神感動、尿毒症、糖尿病等ニシテ又諸種ノ傳染病ノ前驅期ニ於テ蕁麻疹ヲ現ハスコトアリ。

**症候** 本症ニ固有ナルハ著シキ痒痒ヲ伴ヒ(時アリテ初期發熱ヲ現スコトアリ)白色又ハ淡紅色ヲ呈シ或ハ又紅輪ヲ以テ圍繞セラレタル隆起疹ノ發生ニシテ其上面ハ平坦ニシテ恰モ硬浮腫ノ觀ヲ呈シ屢々隱顯出沒シ、一定ノ排列ヲナスコトナシ。其大小ハ種々ニシテ其形狀モ不同ニ時アリテ各疹相融合シテ大斑ヲ形成シ、殊ニ顔面關節部、陰部等ニ在リテハ廣ク浮腫狀ヲ呈スルコトアリ。カ、ル皮膚疹ハ一過性ニシテ全然消散シ又再ビ現ハレザルコトアリト雖モ往々再發シ來ルヲ見ル。其他本症皮膚疹ニ水泡(水泡性蕁麻疹 Urticaria vesiculosa) 色素沈著(色素性蕁

麻疹。Urticaria pigmentosa) 等ヲ現ハスコトアリ。但シ後者ノ場合ニ於テハ後ニ黃褐色ノ斑點ヲ殘遺スベシ。

**療法** 本症發生ノ原因判明スルアラバ先ヅ之ヲ除去スベク尙排便ヲ整然タラシメ同時ニ食餌ニ注意シ時アリテ食餌ノ變換ヲ試ミテ卓效ヲ見ルコトアリ。局所的ニハ扁桃油、肝油等ノ擦入ヲ試ミ、搔痒ニ對シテハ醋水ノ洗滌、薄荷腦酒精(二—三%)、昇汞醋(〇五%)、クロ、フォルム、樟腦精等ノ塗布ヲ施シ、或ハ次ノ處方ヲ試ムベシ。

處方例〇薄荷腦

「クロ、フォルム」

五〇

「エーテル」

樟腦精

各一五〇

右混和塗擦料。

〇「アネステジン」

一〇〇

薄荷腦

二〇

黄色ワゼリン

一〇〇〇マデ

右混和塗擦料。

其他粉劑ノ撒布、糠枇浴等亦用ヒラル。

内服藥トシテハ病初ニ於テ甘汞、蓖麻子油等ヲ投與シ腸管ニ誘導シ、次デ「アンチピリン」、「サリチール酸」ナトリウム等ノ服用ヲ命ズ。慢性症ニハ「アトロピン」、「亞砒酸」ヨードカリウム等適用セラル。轉地療養、又空氣ノ變換ハ頑固ナル病症ニ對シテ屢々卓効ヲ奏スルヲ見ル。

第十一 痒疹 Prurigo.

痒疹ト稱セラル、ハ既ニ幼齡兒ニ於テ特發シ或ハ慢性、蕁麻疹及ビ濕疹ヨリ發起シ來ル慢性皮膚疾患ニシテ多數ノ白色乃至淡紅色ナル小丘疹ヲ現ハシ來ル。該皮膚疹ハ主トシテ四肢ノ伸展側、下腹部、臀部、會厭部等ニ發症シ膝脰及ビ肘窩ハ毎常之ガ侵襲ヲ被ムルコトナシ。而シテ痒感劇烈ニシテ同時ニ鼠蹊、腋窩等ノ淋巴腺腫脹ヲ來スヲ見ル。患兒ハ痒感ニ惱マサレ搔爬スルノ結果皮膚ノ剝脫濕疹ヲ現ハシ遂ニハ局所ノ浸潤若クハ異常色素沈著ヲ起シ來ルニ至ル。本症ハ其經過甚ダ慢性ニシテ患兒ハ晝夜ノ別ナク其劇痒ニ惱マサレ睡眠ハ不安トナリ漸次羸瘦ヲ起シ來ルニ至ルヲ見ル。

**療法** 局所療法トシテハ硫黃浴(一浴中ニ硫化カリウム三〇〇—五〇〇ヲ加

フヲ取ラシメ或ハ軟石鹼塗擦後溫浴ヲ爲サシメ又「ナフトール軟膏(5%)」ツメノ  
ル「亞鉛」(「バスタ」)5%等ヲ外用セシム。

内服ニハ鐵劑、肝油、フオーレル水等ヲ投與シ、又痒感ニ對シテ「アンチピリン」(「プロ  
ムカリウム」等)ノ服用ヲ命ズ。此他適當ナル營養、新鮮ナル空氣(海濱へノ轉地)等  
ニ注意スベキハ緊要ナリトス。

### 第十三 苔癬 Lichen.

苔癬ト稱セラル、ハ紅色乃至淡紅色ノ丘疹ニシテ或ハ散在性ニ或ハ密集シテ  
發現シ長短種々ナル時日ヲ經テ褪色シ後糠狀落屑ヲ起シ來ルモノナリ。

腺病性苔癬 Lichen scrophulorum ハ主トシテ腺病性兒童ニ於テ現ハレ粟粒大淡黃色  
ノ丘疹ヲ爲シ圓形若クハ環狀ニ密集發生シ痒感少ク慢性ノ經過ヲ取ル。

蕁麻疹樣苔癬 Lichen urticatus ハ多ク七歲以内ノ小兒ニ於テ現ハレ粟粒大乃至扁  
豆大ノ紅色丘疹ヲ爲シ病初ニ於テハ恰モ水痘ノ觀ヲ呈シ痒感甚ダシク數日ニシ  
テ水疱ヲ形成スルコトナク退消スルモ長短種々ナル時日ヲ經テ又新ニ發生シ來  
ルヲ見ル。

毛髮苔癬 Lichen strafulus 芥子粒乃至扁豆大ノ結節樣疹ニシテ多ク毛髮ニヨリテ  
貫通セラレ顔面、背部、腕、脚等ニ發生シ痒感強ク漸次褪色シ來ラバ落屑ヲ現ハシ來  
ル、而シテ本症ハ哺乳兒ニ於テ屢々發見セラル。

紅色苔癬 Lichen ruber ハ小兒ニ於テハ極メテ稀ナリ。  
療法 局所的ニハ醋水若クハ石炭酸水(1%)ニテ數次身體ヲ洗滌シ、氣中ニ乾  
燥セシメ次テ亞鉛華澱粉(又滑石)ヲ撒布スベシ。其他毛髮苔癬又ハ蕁麻疹樣苔癬  
ニ在リテハ甘汞若クハ「センナ」浸ニヨリテ通利ヲ來サシメ兼テ食餌ノ變換ヲ行ハ  
シムルコトアリ。腺病性苔癬ニ於テハ又肝油ノ内服ヲ命ズベシ。

### 第十四 鱗屑癬 Psoriasis, Schuppenflechte.

本症ハ其病原尙未ダ不明ニシテ或ハ寄生性ナルモノ、如シト云ヒ或ハ遺傳的  
疾患ナリト唱ヘ歸一スルニ至ラズ。

鱗屑癬ノ原發疹ハ帽針頭大ノ丘疹ニシテ其頂點ニ白色ノ光輝アル鱗屑ヲ生ジ、  
該鱗屑ヲ剝去スレバ點狀出血ヲ現ハスヲ見ル。其好發部位ハ四肢ノ伸展側ニシ  
テ殊ニ膝關節及肘關節ノ伸展面ニ現ハレ、又臀部、顔面、頭部等ニ發現シ來ルコトア

第二十三圖  
鱗屑癬  
(Nach Pfawndler)



11100

リ。鱗屑癬ノ發育スルヤ種々ノ形態ヲ現ハシ點狀鱗屑癬 Psoriasis punctata 滴狀鱗屑癬 Psoriasis guttata 貨幣狀鱗屑癬 Psoriasis nummularis 迂廻性鱗屑

癬 Psoriasis gyrata 環狀鱗屑癬 Psoriasis annularis 等ヲ現ス。全身症狀ハ多ク障礙ヲ被ルコトナク痒感モ甚ダシカラザルヲ常トス。而シテ其經過ハ慢性ニシテ屢々再發ヲ現ハシ來ルヲ見ル。

療法

内服藥トシテ亞砒酸及ビ「ヨードカリウム」ヲ賞用ス。外用ニハ「クリサロビン」ワゼリン「ナフトール」軟膏、ウ「ルキンソン」氏軟膏等ヲ適用ス。

第十五 多發性癰瘡 Furunculosis, Multiple

Furunkelbildung.

本症ハ一、二歳ノ小兒殊ニ腺病性惡液性虛弱ナル小兒ニ來リ又諸種重病ニヨリテ衰脱セル小兒ニ於テ之ヲ見ル。解剖的ニハ膿瘍性毛囊炎 Folliculitis abscedens ト名クベキモノニシテ膿葡萄狀菌ノ毛囊腺若クハ汗腺ノ如キ皮膚ノ自然的孔口ヨリ侵入シ來ルニヨリテ惹起セラレ、モノナリ。

症候

本症ハ最初豌豆大ノ硬結トナリテ現ハレ之ヲ蔽フ皮膚ハ僅ニ潮紅シ之ヲ壓スルニ多少ノ疼痛ヲ起ス。次テ漸次増大シ來リ之ヲ蔽フ所ノ皮膚ハ帶青紅色トナリ試ニ該部皮膚ヲ緊張スレバ前記紅色ハ褪色シ其中央ニ於テ扁豆大ノ黃色斑ヲ見出シ得ベシ。カクテ該癰瘡ノ自潰多クハ六―八日後スルカ或ハ之ニ截開ヲ加フル時ハ濃稠血性ナル膿汁ヲ漏シ次テ該部ハ陷沒シ速ニ治癒ニ向フ。其好發部位ハ背部項部後頭部臀部上腿及ビ下腿ノ後側等ニシテ稀ニ手腕顔面足背等ニ發現スルコトアリ而シテ此ノ如キ癰瘡ハ屢々多發シ同時ニ二十箇乃至五十箇若クハ以上ニ及ビ時アリテ互ニ密集シテ發生スルコトアリト雖モ通例融合

多發性癰瘡

11101

シ、來ルコトナシ。本症ニ於ケル癬瘡ハ其一群治癒ニ向フモ又新ニ癬瘡群現ハレ、カクテ數週ニ互ルコト少ナカラズ。其他癬瘡中ニ於テ化膿ニ移行スルコトナク、久時小硬結トシテ殘遺シ漸次吸收セラル、モノヲ見ルコトアリ。全身症狀亦多少ノ障礙ヲ被リ患兒ハ睡眠不安トナリ、食慾不振ヲ來シ、往々惡寒、熱發ヲ見ルコトアリ。

**療法**

豫防トシテ小兒殊ニ虛弱、惡液性、腺病性ナル小兒ハ皮膚ノ攝生ニ注意シ衣服、襪衣等ノ清潔ナルモノヲ給スルヲ要ス。

既ニ本症ヲ起セシ場合ニ在リテハ先ヅ營養ニ注意シ殊ニ其原發疾患、腺病、佝僂病、慢性腸加答兒等ノ治癒ニ努ムルヲ要ス。癬瘡ニ對シテハ最初無菌性繃帶ヲ施シ或ハ醋酸アルミニウム液若クハ昇汞水(0.2%)ノ罨法、灰白軟膏ノ塗布等ヲ行ヒ既ニ明ニ化膿シ軟化ヲ示サバ時ヲ移サズ截開スベシ。

第十六 生虱病 Pediculosis.

本病ハ頭虱 Kopflaus ニヨリテ惹起セラル、モノニシテ專ラ有髮部ノ膿疱様濕疹トシテ現ハル。頭部皮膚ハ所々ニ厚キ痂皮ヲ被リ甚シキ痒感ヲ伴ヒ尙ホ其附

近ニ於テ新鮮ナル膿疱及ビ搔爬濕疹結節ヲ發見シ得ベシ。其他屢々頸部、淋巴腺ノ腫脹及ビ膿瘍形成ヲ見、搔痒ニ基ク不眠、貧血等ヲ惹起スルアルヲ見ル。

**診斷**

頭虱若クハ毛髮ニ密著セル虱卵 Läuseeier, Nisse ノ證明ニヨリテ容易ニ確定スルコトヲ得ベシ。

**療法**

本病ノ療法ハ次ノ三項ニ注意スベシ。

- (一) 頭虱ノ除去ニ對シテハ石油ヲ有髮部ニ塗擦シ或ハ石油及ビオレーフ油ノ等量混合液ヲ用ヒテ毛髮ヲ洗ヒ且該液ヲ以テ一夜ヲ通ジテ有髮部ノ罨法ヲ行フ。
- (二) 皮膚ノ續發症狀ニ對シテハ白降汞軟膏(10%)ニテ後療法ヲ行ヒ時宜ニヨリ「バスタ」若クハ散布粉ヲ適用ス。
- (三) 殘留セル虱卵ニ對シテハ醋酸若クハ醋酸ノ中ニ浸セル櫛ヲ以テ毛髮ヲ梳ルヲ要ス。

蓋シ毛髮ノ短剪若クハ剃去ハ治療ヲ有効ナラシメ治期ヲ短縮セシムルコト明カナリ。

第十七 疥癬 Scabies, Krätze.

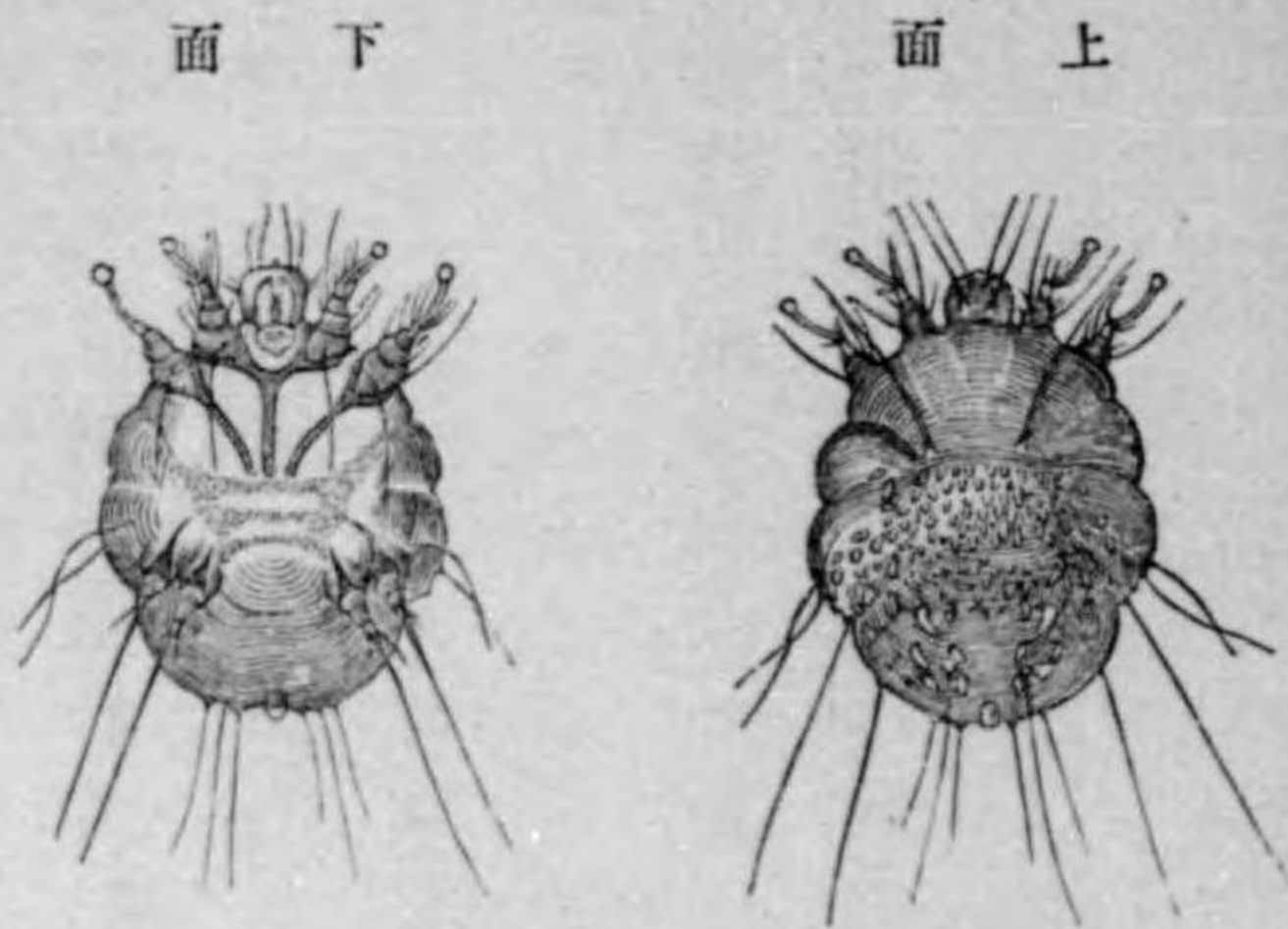
疥癬ハ疥癬蟲 *Sarcoptes hominis*, *Acarus scabiei*, *Kratzmilben* ノ皮膚内ニ侵入シ來ルニヨリテ惹起セラシ、煩ハシキ傳染性皮膚疾患ナリ。

**症候** 疥癬蟲ノ皮膚マルビギー氏網層内ニ穿孔侵入シ來ルヤ甚シキ癢痒及ビ續發性皮疹ヲ現ハシ來ル。癢痒刺戟ハ殊ニ夜ニ入り牀温ニ接シテ増劇シ來ルヲ見ル。皮膚ニハ多數ノ血性痂皮線狀乃至帶狀癢痕ヲ殊ニ背部、胸部等ニ於テ現ハシ又兼テ種々ノ形態ヲ現ハス所ノ濕疹ヲ來シ個々散在セル丘疹、小水疱疹膿疱、「エツクチーマ」等ヲ現ハスニ至ル。

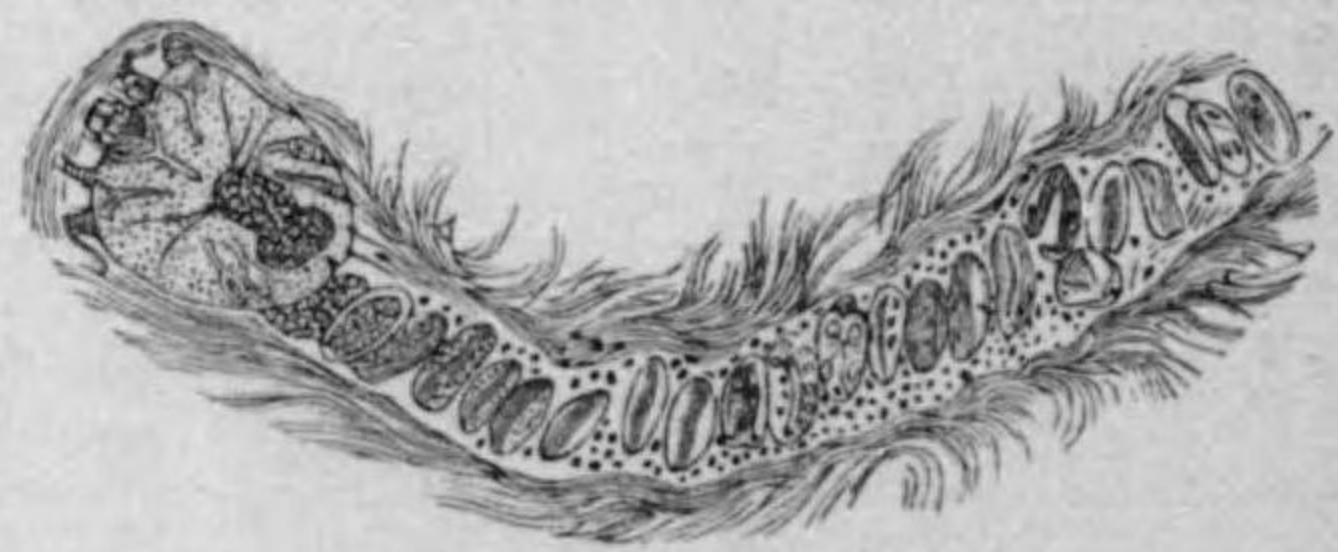
疥癬蟲ノ好デ寄生スル部位ハ指間皺襞、手關節、肘關節及ビ膝關節ノ内側(屈曲側)、臀部、腋窩皺襞包皮等ナリト雖モ幼齡兒ノ柔軟ナル皮膚ニ於テハ手掌若クハ足趾ニ於テ之ヲ見ルコト少ナカラズ。

本病ニ特有ナル皮膚ノ變化ハ疥癬道 *Milbengang* ノ出現之レナリ。疥癬道ハ好デ手及ビ足趾ニ手關節ノ内面、指ノ側面、足背等ニ於テ發見セラシ、其長サハ〇・五—二〇浬其幅ハ〇・五—一浬ヲ有シ、或ハ直線ヲ爲シ或ハ輕キ彎曲ヲ示シ往々其末端ニ於テ白色ヲ呈セル小隆起點ヲ見出スベシ。人若シ刀尖若クハ針尖ヲ用ヒテ此疥癬道ヲ其方向ニ從フテ截開シ圓形ヲ爲セル小點ヲ見出シ顯微鏡下ニ於テ之ヲ

第 二 百 四 十 四 圖  
疥 癬 蟲



疥癬道ノ縱斷  
(道中ニ卵及蟲ヲ見ル)



檢スルトキハ固有ノ疥癬蟲ヲ發見シ得ベシ。

**診斷** 前記ノ諸

徵ニヨリテ診定スベシ殊ニ其好發部位及ビ疥癬道ニ注意シ疥癬蟲ヲ發見スルコトヲ得バ其診斷確定スベシ。

**療法**

疥癬ノ療法ニハ種々ノ驅蟲劑適用セラシ、モロー氏ハヘブラ氏ノ改良セルウキルキンソン軟膏(硫黃華、木タール各四〇〇、カリ石鹼、豚脂各八〇〇、白堊五〇)ヲ次ノ如クニシテ用フルノ法ヲ賞揚セリ。

第一日 先ヅ綠石鹼ヲ體部ニ塗擦シ、次テ五—十分間溫浴ヲ取リヨク摩擦セシメ、次テ前記ノ軟膏ヲ全身殊ニ手及ビ足ニ塗擦セシム。



第二日 朝前記ノ軟膏ヲ塗擦シ次テ患兒ヲ牀中ニ臥セシメ夕刻再ビ塗擦ヲ行フ。

第三日 朝綿花及ビ油ヲ用ヒテ體部ニ附著セル軟膏ノ餘分ヲ拭除シ次テ全身ニ亞鉛華滑石粉ヲ撒布セシム。而シテ夕刻ニ至リ溫浴ヲ命ジ新鮮ナル襯衣ヲ著セシムベシ。

哺乳兒ニ在リテハ尙ホ緩和ナル軟膏例ヘバ「ベルーバルサム」若クハ「流動蘇合香」(共ニ「オレーフ」油ノ等分混合物)ヲ用フ、但シ此場合ニ在リテモ數日間連續シテ其療法ヲ行ハザルベカラズ。

### 第九編 耳ノ疾患 Krankheiten des Ohres.

#### 第一 外耳炎 Otitis externa.

**原因** 本病ハ外聽道ニ發生セル皮膚疹、落屑、濕疹等ニヨリテ來リ或ハ種々ノ異物、疔、耳漏等ノ刺戟ニヨリ或ハ爪甲若クハ搔耳子ヲ用ヒテ搔爬シ損傷ヲ來スニヨリテ起ル。

**症候** 本病ニ於テハ臨床上次ノ二症ヲ區別ス。

(一) 廣汎性外耳炎 Otitis externa diffusa.

外聽道ニ於ケル皮膚層ハ多少廣汎性ニ潮紅、腫脹シ來リ耳痛ヲ伴ヒ殊ニ咀嚼運動、耳翼ノ接觸、耳珠ノ壓迫等ニヨリテ其増加ヲ現ハシ、同時ニ耳分泌增量シ漿液性乃至膿性耳漏ヲ見ル。尙ホ發熱之ニ伴ヒ側方ニ於ケル頸部、淋巴腺ノ腫脹ヲ起シ幼齡兒ハ甚シク不安トナリ屢々啼泣シ睡眠亦不安トナル。聽力ハ通例甚シキ障礙ヲ現ハサズト雖モ時アリテ鼓膜ノ侵襲ヲ來ストキニ於テハ多少ノ難聽ヲ現ハシ來ルヲ見ル。

本症ハ通例治癒ニ移行スルモノナリト雖モ稀ニ鼓膜ノ穿孔、中耳炎、骨性外聽道

ノ肉芽發生、外聽道、ボリープ等ノ續發ヲ見ルコトアリ。

(二)限局性外耳炎又耳癬 Otitis externa circumscripta, Ohrfurunkel.

本症ノ主徴ハ耳痛ニシテ其發生部位ニヨリテ多少強弱ノ度ヲ異ニス、即チ外聽道ノ深部ニ發生セルモノハ皮膚ト骨膜トノ連著密ニシテ移動シ難キヲ以テ外部ニ比シテ其疼痛甚シキヲ常トス。該耳痛ハ特發性ニモ之ヲ訴フルモ殊ニ咀嚼運動、談話、耳翼ノ牽引、耳珠上ニ加ヘタル壓迫等ニヨリテ著シク増劇シ來ルヲ見ル。其他外聽道ノ前壁ニ於ケル耳癬ハ往々顎關節、耳下腺、頰部等ノ附近ニ於ケル浮腫ヲ招キ、後壁ニ發生セルモノハ乳嘴突起ノ附近ニ於テ浮腫性腫脹ヲ現ハシ來ル。耳癬ノ腫脹甚シクシテ爲メニ外聽道ノ全然閉塞セラレ、トキハ即チ難聴ヲ起シ來ルコトアリ。又耳癬ノ化膿熟シ外方ニ破潰シ來ルトキハ膿性耳漏ヲ現ハシ耳痛ハ頓ニ緩解シ來ルヲ見ル。

本症モ通例頸部淋巴腺ノ腫脹ヲ起シ發熱ヲ伴ヒ全身症狀亦犯サレ時アリテ全身ノ傳染ヲ來シ腦膜炎ヲ見ルコトアリ。

診斷 外耳炎ノ診斷ハ每常外聽道ノ視診ニヨル。

療法 廣汎性外耳炎ノ急性症ニ對シテハ局部ニ氷嚢ヲ貼シ五%ノ石炭酸、グ

リセリンヲ綿球ニ附シテ挿入シ置キ時々交換スベシ、後期ニ至レバ硼酸軟膏、亞鉛華軟膏、イヒチオール軟膏等ヲ適用スベシ。

耳癬ニ際シテハ適當ナル大サヲ有スル綿栓ヲ製シ之ニ五%ノ石炭酸、グリセリン、五—八滴ヲ附シテ外聽道内(耳癬ノ全面ニ藥液ノ作用スルガ如ク)ニ挿入シ毎二時一回宛交換シ耳癬ノ化膿顯著トナリ其頂點ニ於テ白色ノ膿點ヲ現ハスニ及ビテ耳癬刀 Ohrfurunkelmesser ヲ用ヒテ切開スベシ。カクテ急性症狀經過シ去ラバ硼酸軟膏ヲ適用スベシ。

第一 耵聍栓塞 Cerminalfropf, Ohrschmalzpfropf.

原因 本症ハ外聽道ニ於ケル耵聍腺ノ分泌増進、上皮剝脫ノ増加等ニ基キテ來リ尙ホ塵埃ノ蓄積ハ亦其一因ヲ爲ス。

症候 患兒ハ毫モ訴フルコトナキアリ、或ハ耳内若クハ其頭側ニ於テ鈍感乃至重感ヲ來シ、或ハ難聴、自覺的雜音蜂鳴様若クハ泡沸様ヲ現ハシ、或ハ反射性ニ頭痛、扁頭痛、咳嗽(耳性咳嗽 Ohrhusten)等ヲ招來スルコトアリ。

診斷 外聽道ノ視診(耳鏡ヲ用ヒテ)ヲ行ヒ帶黃色、帶褐色乃至暗褐色ノ圓塊ヲ

發見スレバ其診斷確定スベシ。

療法

先ヅ「オレーフ」油一日三四五滴宛若クハ重曹水(2%ノ重曹水若クハ重曹「グリセリン」水一・五：一五ヲ用ヒテ一日數回點耳)ヲ以テ「叮嚀」ヲ軟化溶解シ次テ體溫ニ迄溫メタル微温水ヲ取り耳用「スポイト」ニテ洗滌除去スベシ。

第二 異物 Fremdkörper.

外聽道内ニ迷入シ來ル異物トシテ屢々遭遇スルハ石塊、硝子球、搔耳子頭ノ破片、豆粒、豌豆、小豆、大豆、麥、米等、木片、紙片等ニシテ多クハ遊戲中自ラ其耳内ニ挿入シ或ハ他ノ同輩ノ挿入スルニ基ク。其他生活セル蟲類例ヘバ蠅、蚊、蚤、虻、蜘蛛、蟻等ノ飛入シ來リ逃路ヲ失フニヨルコトアリ。著者ハ去歲歐洲滯留中維納大學ノ耳科「クリニツク」ニ於テ蛆ノ多數外聽道内ニ發育セル一例ヲ見タリ。

症候

本症ハ何等ノ自覺的症狀ヲモ現ハサルコトアリ、或ハ耳内閉塞ノ感、難聽、耳鳴、痒感等ヲ來シ、或ハ種々ノ反射症狀、齒痛、頭痛、食慾缺損、咳嗽、嘔吐、搖擗癩癩樣發作、嚔下困難、喘息等ヲ惹起シ來ルコトアリ。其他鼓膜ノ損傷ヲ起ストキハ之ヲ穿孔シ化膿性中耳炎ヲ招來シ稀ニ腦膜炎ノ如キ重篤症ヲ續發スルコトアリ。

療法

本症ニ對シ直ニ鑷子若クハ鉗子ヲ用ヒテ之ヲ除去セント試ムルハ却テ異物ヲ深部ニ送り或ハ鼓膜ヲ破リテ鼓室内ニ轉位セシムルノ惡果ヲ來スアルヲ以テ禁忌スベシ。

外聽道内ニ横ハレル異物ニ際シテハ先ヅ患兒頭ヲ其耳側ニ傾ケ、振盪スルカ或ハ尙ホ確實ナル耳洗滌法ヲ行フベシ。

耳洗滌法ヲ行フニハ耳輪ヲ少シク後上方ニ牽引シ次テ耳内「スポイト」ニ微温水若クハ微溫硼酸水ヲ吸引シ其尖端ヲ少シク斜ニ外聽道壁ニ向ハシメ適度ノ壓ヲ以テ耳洗ヲ行フベシ。然ルトキハ異物ハ通例先ヅ鼓膜面ニ衝突シタル後逆流シ來ル所ノ水流ニヨリテ浮遊脫離シ壓出セラレ來ルベシ。但シ一回ノ耳洗ニヨリテ其効果ヲ見ザルトキハ再三反覆シテ之ヲ行ハザルベカラズ。

生活セル蟲類ニ際シテハ徐々ニ微温水ヲ送り或ハ先ヅ油類ヲ點耳スベシ。耳内ニ固著セル異物ニ際シテハ遂ニ機械ノ力ヲ借ラザルベカラザルコトアリ、即チ小ナル銳鈎、ダウエル氏匙等ノ如キ之レナリ。

前記諸法ニヨリテ其目的ヲ達スル能ハザルトキハ遂ニ手術的處置ニ移ラザルベカラズ、即チ耳翼ヲ後方ヨリ切開シ外聽道ヲ剝離切開シテ摘出スルニアリ。

異物

第四 急性中耳炎 Otitis media acuta, Akute  
Mittelohrentzündung.

**原因** 急性中耳炎ハ小兒ニ於テ屢々遭遇スル所ノ耳疾患ニシテ種々ノ疾患殊ニ急性傳染病ニ際シ鼻腔、鼻咽腔、咽頭等ニ於ケル炎症ノ傳播シ來ルニヨリテ發ス、即チ猩紅熱、實扶的里、インフルエンザ、麻疹等ニ接シテ發現スルハ人ノ屢々目撃スル所ナリ、蓋シ初齡兒ニ在リテハ歐氏管比較的ニ短大ニシテ且ツ容易ニ發現シ來ル所ノ吐逆運動ハ炎症乃至病原菌ノ侵入ニ對シ多大ノ便宜ヲ與フルモノナリ、本病ハ急性傳染病ノ外時アリテ咽頭、加答兒、鼻、加答兒、氣管、枝、加答兒、肺炎等ニ接續シテ發起シ來ル、其他歐氏管ノ媒介ニヨラズシテ鼓膜ノ穿孔ニヨリ外耳ヨリ病原菌ノ侵入ヲ見ルコトアリ例ヘバ外傷若クハ異物ノ如キ即チ之レナリ。

**細菌學的**ニハ其滲出液内ニ於テ多クハ肺炎菌、ブレイシング、Preysing氏ニ從ヘバ九二%ヲ見出シ尙ホ連鎖球菌若クハ他ノ細菌ヲ證明シ得ルコトアリ。

**症候** 急性中耳炎ノ症狀ハ甚ダ不定ナルヲ以テ殊ニ年齒尙ホ小ナルモノニ在リテハ往々之ヲ觀過セラレ、アルヲ見ル、即チ初齡兒ニ於テハ疼痛不明ニシ

テ唯全身不安、倦怠、過敏、食慾不振、發熱等ヲ來シ而モ他ノ臟器ニ於テ何等認ムベキ變化ヲ證明シ能ハザルニヨリ或ハ鼓室疾患ノ伏在ヲ想像セシムルコトアリ、或ハ又患兒其疼痛ヲ訴フル代リニ轉々反側シ或ハ屢々頭首ヲ回旋シ或ハ頭首ヲ枕床ニ壓抵シ或ハ頭髮ヲ摘筆シ或ハ顛顛部ヲ握握スルガ如キノ舉動ヲ現ハシ來ル、其他患兒ハ好デ罹患側ニ横臥シ母氏ノ反對側ノ乳腺ヨリ哺乳スルヲ見、又屢々耳珠ノ上ヲ壓迫スルトキハ顯著ナル過敏性ヲ現ハスベシ。

疼痛劇烈ナルトキハ食慾ハ全然缺如シ往々嘔吐ヲ起シ時々數時間ニ互リテ啼泣鳴咽スルヲ見ル、其他時アリテ搖蕩昏聩、腦膜炎様症狀ノ發現シ來ルコトアリ。

幼齡兒ノ其レニ反シテ年長兒ニ在リテハ其疼痛部位ヲ明カニ指定シ得ベシト雖モ時アリテ全然疼痛ヲ訴ヘザル所ノ中耳炎所謂無痛性中耳炎、schmerzlose Otitis)ノ現ハル、コトアリ、カ、ル場合ニハ鼓膜ノ穿孔ニヨリテ始メテ之ヲ發見スルニ過ギズ。

熱候ハ多樣ニシテ或ハ數日間ニ互リテ四十度ヲ超ユルノ高熱ヲ示シ或ハ反對ニ極メテ輕微ナル發熱ニ過ギザルコトアリ、淋巴腺中殊ニ耳ノ後部、胸鎖乳嘴筋ノ後方若クハ耳珠ノ前方ニ於ケルモノ之ハ殊ニ亞急性症ニ於テ之ヲ見ル等ハ屢

々其腫脹ヲ見ル

耳鏡所見 Spiegelbefund 鼓膜ノ耳鏡検査ヲ行フトキハ固有ノ像ヲ呈スベシ即チ鼓室内ニ加答兒性滲出液ノ充滿シ來ルトキハ灰色ヲ呈スル代リニ帶黃褐色ノ色調ヲ示シ若シ其滲出液ノ充滿不全ナルトキハ空氣及ビ滲出液間ノ境界水平線 Zivertlinie ヲ明カニ視察シ得ベシ。其ノ他強キ滲出液蓄溜ニ際シテハ鼓膜ハ淡紅色乃至薔薇紅色ヲ呈シ膨隆ヲ起シ來ルヲ見ル。一般ニ羸瘦症ニ陥レル哺乳兒ニ在リテハ鼓膜ノ潮紅不全ニシテ僅ニ溷濁及ビ隆起ヲ現ハスニ過ギズ。

本病ノ持續ハ甚ダ多様ニシテ早ク二十四時間以内ニ於テ其極點ニ達シ或ハ數日ノ經過ニ於テ鼓膜ノ穿孔ヲ現ハシ或ハ滲出液自然ニ吸收セラレ特發性治愈ヲ見ル。

鼓膜穿孔ノ部位ハ多ク後下部 hintere untere Quadrant ニシテ稀ニ他ノ部位殊ニ哺乳兒ニ在リテハ最上部ニ於テ現ハルコトアリ而シテ其大サハ甚ダ微小ニシテ直徑一耗ヲ超フルハ稀ナリ故ニ此穿孔ヲ認ムルコトハ難事ニ屬スト雖モ通例其穿孔セル小隙ヨリ滲出液ノ光輝アル搏動性小點トシテ現ハレ來ルニヨリテ之ヲ認定シ得ベシ。

鼓膜ノ穿孔ヲ來スヤ疼痛其他ノ症狀ハ頓ニ緩解シ來ルヲ見ル。耳漏ハ初メ血性漿液性ナルモ後ニ至レバ粘液膿性トナリ次テ純膿性トナリ最後ニ至リ再ビ粘液性トナル。膿性耳漏ハ通例數日ニシテ其終ヲ告グルモノナリト雖モ亦慢性症ニ移行スルコト少ナカラズ。耳漏ノ長ク持續スルトキハ其刺戟ニヨリテ外聽道口若クハ耳翼ニ於テ濕疹ノ發現ヲ見ル。

併發症 鼓室ハ後方乳嘴突起内ニ位セル乳嘴竇及ビ其細胞ト交通セルガ故ニ往々乳嘴竇ノ蓄膿症、乳嘴突起炎等ヲ起シ次テ乳嘴突起ノ骨膜下乃至皮下膿瘍、顱骨ノ壞疽、腦膜炎等ヲ惹起シ來ルコトアリ。

豫後 急性中耳炎ノ豫後ハ一ハ病機ノ性狀ニ關シ一ハ患兒ノ全身狀態ニ關聯スルモノナリ。猩紅熱中耳炎ハ往々聽骨ヲ破壞シ内耳若クハ乳嘴竇ヲ犯スコトアルヲ以テ最モ人ノ恐ル所ナリ。實扶的里及ビ麻疹中耳炎ハ稍々可良ナリト雖モ後者ハ慢性症ニ移行スルノ傾向アリ。虛弱若クハ腺病性小兒ニ在リテハ穿孔後ニ於ケル治愈ノ傾向少ナク毎常慢性ニ移行スルヲ見ル。

診斷

本病ハ局處ノ疼痛、耳鏡ニヨル検査所見及ビ耳漏ニヨリテ診定スベシ。

急性中耳炎

療法

先ヅ静臥ヲ命ジ初期ニハ氷嚢ヲ耳部ニ貼置シ成ルベク便通ヲ正シクシ疼痛甚シクシテ不眠ヲ來ストキハ「フェナセチン」「アンチピリン」「キニーネ」若クハ「ヴェロナール」(〇・〇二—〇・二)等ヲ投與スベシ。

耳痛ニ對シテハ溫罨法ヲ試ミ同時ニ溫メタル「メントール」油(一%)若クハ石炭酸「グリセリン」(五%)ヲ點耳シ或ハ其等ノ液ニテ浸淫セル「タンボン」ヲ挿入シテ卓効ヲ見ルコトアリ。

カクスルモ尙ホ耳痛去ラズ而モ鼓膜ノ潮紅及ビ膨隆顯著ナルトキハ後下部ニ於テ鼓膜穿孔術 Parazentese ヲ行ヒ二—三耗長キ切開ヲ鼓膜ニ行ヒ次テ漏液スベキナリ。該術ヲ行ヒタル後ハ「ヨードフォルム」綿紗若クハ滅菌綿紗ノ細長片ヲ緩ク外聽道内ニ挿入シ置クベキナリ。

自然ニ穿孔ヲ來セルトキハ一日二回三%ノ過酸化水素液ヲ點耳シ以テ綿片ニテ注意シツ、外聽道ヲ清拭乾燥シ消毒性散布粉(硼酸)ヲ撒布スベシ。耳漏ニヨリテ外聽道ノ刺戟セラル、トキハ白降汞軟膏(一%)ヲ塗布スベク、乳嘴突起炎其他ノ併發症ニ對シテハ各之ニ適合セル處置時宜ニヨリ外科的處置ヲ行フベキナリ。

第五 慢性中耳炎

Otitis media chronica.

本症ハ專ラ急性中耳炎ニ續發シ來ルモノニシテ虛弱兒、腺病兒、結核性乃至微毒性兒等ニ於テ之ヲ見ル。

其主徵ハ耳漏及ビ重聽ニシテ數月乃至數年ニ亘ル。

療法

先ヅ全身療法ヲ行ヒ局處的ニハ三%過酸化水素ヲ毎日點耳シ、粘稠ニシテ惡臭アル耳漏ニ際シテハ注意シテ一%ノ過酸化水素液、三%ノ硼酸水、過マンガン酸カリウム液等ヲ用ヒテ洗滌スベシ。

### 第十編 諸中毒症 Vergiftungen.

小兒ニ在リテモ諸種ノ中毒ハ甚ダ稀ナリト云フベカラズ今兒齡ニ於テ比較的屢々遭遇スル所ノ中毒症ヲ選ビテ之ヲ略記シ殊ニ「アルファベット」ノ順ニ從フテ之ヲ列記シ以テ急速披見ノ便ニ資セント欲ス。

#### (一)「アルカリ」中毒 Alkalienvergiftung.

「アルカリ」即チ「カリ」滴汁若クハ「ナトロン」滴汁ノ如キ腐蝕「アルカリ」ニヨル中毒ハ兒齡ニ於テ寧ロ稀有ニ屬ス。

**症候** 服用後直ニ口腔、咽頭、食道、胃等ニ於テ劇痛ヲ發シ、口腔粘膜ノ腐蝕及ビ炎症頻發スル劇烈ナル嘔吐、無臭粘稠ナル「アルカリ」性吐物、血性下痢、「アルカリ」性血性尿等ヲ現ハシ時アリテ腹膜炎ヲ起シ虚脱ニ陥ルコトアリ。爾後ノ經過ニ於テ消化器ノ上部殊ニ食道ニ於テ廣汎性癰痕形成ニヨル狭窄ヲ起シ來ル。

**療法** 稀醋、稀酒石酸液其他ノ稀薄酸液ノ多量ヲ用ヒテ「アルカリ」ノ中和ヲ期シ、或ハ脂肪油類若クハ乳劑ヲ服用セシメ其他氷塊、牛乳等ヲ投與シ時宜ニヨリテハ滋養浣腸ヲ行ヒ兼テ麻醉劑若クハ興奮劑ヲ與フ。後期ニ及ビテハ食道ノ消息

子擴張法ヲ行フベシ。

#### (二)「アルコホル」中毒 Alkoholvergiftung.

「アルコホル」ノ急性中毒ハ酒精飲料ヲ誤リテ服用スルカ或ハ戲弄ノ結果ニヨル者多シ。

**症候** 最初興奮ヲ起シ次デ沈鬱ニ傾キ意識及ビ知覺ノ脱失ヲ來シ、瞳孔ハ縮小若クハ散大シ多クハ其反應ヲ失ヒ(反射的瞳孔強直)呼吸ハ喘鳴ヲ伴ヒ呼氣ニ「アルコホル」臭ヲ有シ、脈搏ハ頻小、皮膚ハ厥冷シ「チアノーゼ」ヲ呈シ、嘔氣、嘔吐ヲ發シ、搐搦ヲ現ハシ昏睡ニ陥リ尿及ビ便ノ失禁ヲ來シ血壓及體溫ノ著シキ沈降ヲ惹起シ來ル。

**療法** 速ニ胃内容ヲ排除胃洗若クハ吐劑シ、頭部ニハ冷水ノ灌漑若クハ氷罨法ヲ施シ、腓腸部ニ芥子泥ヲ貼シ、四肢ノ熱浴若クハ熱濕布、醋水(醋一分ニ水三分ヲ混ズ)ノ浣腸、黒咖啡ノ内用、樟腦注射、人工呼吸等ヲ行フ。

「アルコホル」ノ慢性中毒ハ一般ニ小兒ニ於テハ稀有ニ屬ス、其症狀ハ大人ノ其レニ異ルコトナシ。

#### (三)「アンチフェブリン」中毒 Antifebrinvergiftung.

各論 諸中毒症

本中毒ハ主トシテ治療的藥用ニ際シテ遭遇スル所ナリ。

**症候**

「アンチフェブリン」ノ中毒ニ際シテハ嗜眠、著シキ「チアノーゼ」、呼吸困難、體溫沈降、瞳孔散大、色素尿、昏瞶、搐搦、虛脱等ヲ現ハスモ皮膚ノ發疹ハ「アンチピリン」ノ如ク頻發スルコトナシ。

尿中ニ於ケル「アンチフェブリン」ハ存在ヲ證明セント欲セバ次ノ如ク處置スベシ、即チ尿ニクロ、フォルム「若クハ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ其クロ、フォルムヲ分取シクロ、フォルムヲ揮散セシメタル殘渣ニ「カリ」鹵液ヲ加ヘテ熱シ「アニリン」發生ス次テクロ、フォルムヲ加ヘテ熱スルトキハ「イゾニトリール」ノ惡臭ヲ放ツベシ。或ハ「エーテル」ニテ浸出セル液ニ「クロール」石灰ヲ加フルトキハ藍色ヲ呈スベシ。

**療法**

新鮮ナル空氣ヲ送り胃洗ヲ行ヒ興奮劑ヲ與フ。

**(四)「アンチモニー」中毒 Antimonialienvergiftung.**

吐酒石若クハ金硫黃ニヨル中毒ハ之ニ等シ。

**症候**

口腔、咽頭、胃部等ニ於ケル灼痛、惡心、流涎、劇烈ナル嘔吐、疝痛、虎列刺様下痢、冷汗、頻小ナル脈搏、皮膚ノ厥冷「チアノーゼ」、搐搦、腓腸痙攣、虛脱等ヲ起ス。

**療法**

「タンニン」水ヲ用ヒテ胃洗及ビ腸洗ヲ行ヒ且ツ多量ノ牛乳、卵白、燻製「マグネシア」等ヲ與ヘ又氷片、阿片等ヲ投與シ兼テ興奮劑、溫婆等ヲ命ズベシ。

**(五)「アンチピリン」中毒 Antipyrinvergiftung.**

**症候**

嘔吐、耳鳴、蕁麻疹様發疹、口腔粘膜炎、口唇等ニ於ケル炎症性腫脹、體溫沈降、無慾狀態、昏瞶、癲癇様搐搦「アセトン」尿、昏睡、虛脱等ヲ現ハス。

尿中ニ於ケル「アンチピリン」ノ存在ヲ證明セント欲セバ可檢尿ニ過「クロール」鐵液ヲ加フベシ「アンチピリン」存在スレバ血赤色ヲ現ハス、又發烟硝酸ヲ加フレバ綠色ヲ呈スルヲ見ル。

**療法**

胃洗、多量ノ飲料、牛乳、溫浴等ヲ命ジ又新鮮ナル空氣ヲ送り咖啡「エーテル」葡萄酒等ヲ與ヘ又興奮劑、樟腦注射、全身ノ溫纏絡法等ヲ試ムベシ。

**(六)「砒石」中毒 Arsenikvergiftung.**

砒石中毒ハ或ハ砒石化合物ヲ驅鼠劑其他ノ目的ニ用ヒラル、ニヨリ或ハ色素トシ應用セラル、ニヨリテ來リ或ハ砒石製劑ヲ治療上連用スルニヨリテ惹起セラル。

**症候**

急性症ニ際シテハ急性腸胃加答兒ノ症狀ヲ現ハシ其狀虎列刺ニ類ス、



即チ咽頭ニ於ケル瘙痒、嚥下困難、煩喝、腹痛、虎列刺様吐瀉、米泔汁様便裏急後重、頭痛、眩暈、腓腸筋痙攣、肢痛、チアノーゼ、無尿、失神、四肢厥冷、脈搏頻小不整、搖蕩全身麻痺等ヲ現ハス。吐物及ビ尿中ニハ化學的ニ砒石ヲ證明シ得ベシ。

慢性中毒ニ際シテハ知覺及ビ運動ノ障礙(神經炎、麻痺、紅斑性、丘疹性、濕疹性若クハ水疱性發疹、皮膚ノ落屑、毛髮ノ脱落、皮膚ノ黑變、砒素性黑皮症 Arsenmelanose)、鼻加答兒、結膜炎、口内炎、氣管枝加答兒、喉頭加答兒等ヲ來シ漸次惡液質ニ陥ル。

**療法**

急性中毒ニ對シテハ吐劑若クハ胃洗ニヨリテ充分胃内容ヲ排除シ、次テ煨製「マグネシア」(煨製「マグネシア」五〇ヲ水一〇〇〇ニ溶解セシモノヲ每十五分時ニ二―四匙宛服用)若クハ新製砒石解毒劑良ク振盪シツ、用フヲ投與スベシ、其他牛乳若クハ微溫蛋白水ヲ與フ。

慢性中毒ニ對シテハ輕キ下劑ヲ投ジ溫浴ニヨリテ發汗セシメ兼テ電氣療法ヲ行フ。

**(七)「アトロピン」中毒 Atropinvergiftung.**

「ヒヨスタミン」中毒モ亦之ニ類ス。是等ノ中毒症ハ「アトロピン」屬ノ「アルカロイド」ヲ含有スル所ノ植物(曼陀羅、莨菪、ペラドンナ等)ヲ誤リテ食用スルニヨリ或ハ

治療上ノ應用ニヨリテ來ル。

**症候**

口腔及ビ咽頭ニ於ケル乾燥ノ感、嚥下困難、聲音嘶嘎、顔面潮紅、動脈ノ搏動、脈搏ノ頻速、瞳孔ノ散大、視力障礙、不安、眩暈、頭痛、譫妄、躁暴、搖蕩等ヲ來ス。

**療法**

胃洗若クハ吐劑ヲ用ヒテ胃内容ヲ排除シ、次テ下劑(蓖麻子油)ヲ投ジ頭部ニ氷嚢ヲ貼シ或ハ刺絡ヲ行フ。其他抱水「コロラール」ノ浣腸「モルヒネ」ビロカルビン(〇・五―五瓦)皮下ニ注射ス、「タンニン」一%ノ液ヲ内用等ヲ用ヒ、視力障礙ニハ「サリチール」酸「エゼリン」(〇・五%)ノ點眼ヲ行フ。

**(八)「ベンチン」中毒 Benzoinvergiftung.**

「ベンチン」中毒ハ往々石油若クハ揮發油ノ誤飲ニヨリテ來ル。

**症候**

先ヅ胃症ヲ起シ次テ失神、チアノーゼ、瞳孔散大、淺表ニシテ頻數ナル呼吸、脈搏弱小、昇熱、腎臟刺戟等ヲ現ハス。

**療法**

多量ノ水ニテ胃洗ヲ行ヒ、溫浴、人工呼吸、新鮮ナル空氣ノ吸入、牛乳ノ内服、エーテルノ皮下注射等ヲ行フ。

**(九)青酸中毒 Blausäurevergiftung.**

青酸ハ苦扁桃其他ノ果實(桃、梅、杏等)ノ核仁中ニ含有セラル、ヲ以テ往々之レガ

中毒ヲ見ル、又「チアンカリウム」及ビ其化合物モ往々其中毒ヲ來スモノナリ。

**症候** 頭痛、眩暈、胸内苦悶、心動ノ遅徐及ビ微弱、呼吸困難、大ナル間歇ヲ伴フ、チアノーゼ、知覺脱失、瞳孔散大、搐搦、窒息、痙攣等ヲ現ハシ、呼氣ニ青酸臭アリ。大量ナルトキハ速ニ死ノ轉歸ヲ取ル。

**療法** 胃洗過、マンガン酸、カリウム液若クハ過酸化水素ヲ加ヘタル水ヲ用ヒテ行ヒ、刺絡ヲ爲シタル後ニ於テ食鹽水ノ皮下注入ヲ行フ、人工呼吸、酸素ノ吸入、溫浴同時ニ頭部ニ冷水灌溉、興奮劑「クロール」石灰液ノ内服、「アトロピン」ノ皮下注射等ヲ行フ。

(十) 鉛中毒 Bleivergiftung.

鉛中毒ハ或ハ鉛彈ヲ用フニヨリ或ハ鉛化合物ヲ含有セル化粧品ヲ用フルカ或ハ鉛ヲ含有セル種々ノ玩具ヲ用フルニヨリテ來ル。

**症候** 口内乾燥、口内惡臭、食思不振、流涎、嘔吐、齒齦ノ黒變、所謂鉛綠(Bleisamm)、痛、便秘若クハ血便、關節痛、知覺麻痺、黒内障、運動障礙、殊ニ伸筋ノ麻痺等ヲ現ハス。  
**療法** 毒物尙ホ胃中ニ殘留スルアラバ硫酸「ナトリウム」若クハ硫酸「マグネシウム」ノ胃洗若クハ内服(一日數回〇・五—一・〇)ヲ命ジ又卵白、牛乳、興奮劑ヲ投與ス。

慢性症。通例此症多シニ際シテハ鉛ヲ體外ニ排除センガ爲メ「ヨードカリウム」發汗劑、緩下劑等ヲ適用シ、疝痛ニ對シテハ阿片之レト硫酸「マグネシア」トヲ交代シテ用フヲ與ヘ、運動麻痺ニ對シテハ熱浴、電氣療法等ヲ行フ。

(十一) ブローム化物中毒 Bromidevergiftung.

**症候** 鼻加答兒、咳嗽、過敏症、記憶力及ビ思考力ノ減退、發疹、所謂「ブローム疹」(Bromakne)、食思不振、振顫、羸瘦等ヲ現ハシ、尿、唾液、膿疱内容ニ於テ「ブローム」ノ存在ヲ證明シ得ベシ。

診斷。上尿中ノ「ブローム」ヲ檢出スルニハ檢尿ニ少許ノ新鮮ナル「クロール」水ヲ和シ之ニ「エーテル」若クハ「クロ、フォルム」ヲ加ヘテ振盪スベシ。「ブローム」ノ存在ニ於テハ赤褐色ヲ現ハス。

**療法** 先ヅ其休藥ヲ命ジ發汗療法、溫浴、澱粉糊泥、葛湯等ノ内服、又卵白、牛乳、アルカリ等ヲ投與スベシ。

(十二) カンタリジン中毒 Cantharidinvergiftung.

「カンタリス」又芫菁ノ中毒ハ治療的内用若クハ廣汎性外用ニヨリテ惹起セラレ、**症候** 口内灼熱、疼痛、水泡形成、嚔下困難、煩渴、嘔吐、下痢、裏急後重、尿淋瀝、蛋白尿、

血尿、腎臟部及ビ尿道ノ疼痛、膀胱痙攣、眩暈、搐搦、昏瞶、譫妄、昏睡等ヲ現ハス。

**療法** 吐劑若クハ胃洗ニヨリテ胃内容ヲ排除シ粘漿性飲料、卵白水、阿片、溫坐浴、溫水ノ膀胱注入等ヲ處ス。

(十三) 石炭酸中毒 Carbolsäurevergiftung.

「クレオソート」クレオリン等又之ニ等シ。

**症候** 口腔及ビ咽頭ニ於ケル灼痛、惡心、嘔吐、眩暈、耳鳴、昏瞶、蒼白、瞳孔縮小、脈搏及ビ呼吸ノ不整、脱汗、體溫沈降、石炭酸臭、虚脱、暗綠色尿等ヲ來シ哺乳兒ニ在リテハ搐搦又ハ黃疸ヲ現ハス。大量ニ際シテハ速ニ虚脱ニ陥リ脈搏頻小、四肢厥冷シ、心臟及ビ呼吸ノ麻痺ヲ起シテ死ス。

**療法** 含糖石灰溶液(含糖石灰一—二食匙ヲ一「リタル」ノ水ニ溶解シテ製ス)若クハ石灰水(又ハ石鹼水若クハ卵白水)ヲ以テ胃洗ヲ行ヒ或ハ含糖石灰(一刀尖宛水ニ溶解シテ)ヲ内服セシム。其他硫酸ナトリウム、蓖麻子油等ヲ内用セシム。尙ホ興奮劑、溫浴、人工呼吸等ヲ命ズ。

(十四) キニーネ中毒 Chininvergiftung.

**症候** 昏瞶、耳鳴、聾、羞明、虚脱、體溫、全身蒼白、筋搐搦、人事不省、精神障礙等ヲ起ス。

**療法** 胃洗及腸洗ヲ行ヒ吐劑ヲ投ジ、タンニン「ニアルコホル」、抱水「クロラール」、興奮劑等ヲ處ス。

(十五) 抱水「クロラール」中毒 Chloralhydratvergiftung.

**症候** 呼吸遅徐、失神、脈搏及ビ體溫ノ沈降等ヲ現ハス。

**療法** 胃洗ヲ行ヒ人工呼吸「アトロピン」「ストリヒニン」ノ皮下注射、興奮劑等ヲ處ス。

(十六) クロ、フォルム中毒 Chloroformvergiftung.

**症候** 人事不省、知覺及反射脱失、呼吸及脈搏ノ遅徐、瞳孔散大、冷汗、遂ニハ脈搏頻小不整トナリ呼吸及心動ノ停止ヲ來ス。内服セル場合ニハ口腔及ビ咽頭ノ充血、腸胃加答兒等ヲ起ス。

**療法** 新鮮ナル空氣ヲ送り人工呼吸、心臟「マッサージ」、横隔膜神經ノ感傳電氣刺戟、冷水灌漑、酸素ノ吸入「エーテル」ノ皮下注射、亞硝酸「アミール」一—三滴ノ吸入等ヲ施スベシ。

(十七) コカイン中毒 Cocainvergiftung.

「コカイン」中毒ハ或ハ其製劑ノ内服若クハ其溶液ヲ粘膜ニ塗布スルコトニヨリ

テ惹起セラル。

**症候** 口腔、咽頭、鼻腔等ノ乾燥竝ニ異常感覺、嘔下困難、惡心、嘔吐、胃痛、腸疝痛、脈搏頻速、心悸亢進、シヤインストック氏呼吸、沈鬱、眩暈、チアノーゼ、冷汗、失神、搖擗(舞踏病樣、癲癇樣、破傷風樣等)、麻痺等ヲ現ハス。

**療法** 「アルコホル」製劑、溫飲料、亞硝酸、アミールノ吸入(其一—三滴ヲ布片ニ滴下シ吸入)、炭酸、アムモニウムノ内服(一刀尖宛水ニ和シ服用)等ヲ命ジ、心臟部ニ芥子泥ノ貼布ヲ行ヒ人工呼吸ヲ施ス。又搖擗ニ對シテハ抱水、クロラールヲ處ス。其他内服ノ場合ニハタンニン「酸溶液若クハ過マンガン「酸、カリウム「溶液ニテ胃洗ヲ行フベシ。

**(十八)「コルヒチン」中毒 Colchicinvergiftung.**

**症候** 口腔ノ灼痛、絞扼、煩喝、嘔吐、疝痛、下痢、血便、眩暈、譫妄、搖擗、脈搏不整、虛脫等ヲ起ス。

**療法** 先ヅ胃洗及ビ腸洗ヲ行ヒ粘漿藥ヲ與ヘ、溫飲料ニヨリテ利尿ヲ催進シ、又下腹部ニ溫濕布ヲ施シ人工呼吸、興奮劑ヲ處ス。

**(十九)「コニイン」中毒 Coniinvergiftung.**

本中毒ハ毒人參 *Conium maculatum* ノ草根、豆等ノ服用ニヨリテ來ル。

**症候** 口腔及ビ咽頭ノ灼熱及ビ搔感、流涎、眩暈、嘔吐、腓腸痙攣、衰脫、麻痺等ヲ現ハス。

**療法** 先ヅ吐劑ヲ投ジ以テ「タンニン」酸ノ内服、興奮劑、人工呼吸等又刺絡ニ次テ食鹽水皮下注入ヲ行フベシ。

**(二十)「ヂギタリス」中毒 Digitalisvergiftung.**

本中毒ハ專ラ「ヂギタリス」ノ醫療上應用ニヨリテ來ル。

**症候** 惡心、嘔吐、疝痛、下痢、心窩苦悶、昏瞢、脈搏遲徐、利尿減小、呼吸困難、視力障礙、遂ニハ脈搏頻小不整、虛脫、心臟麻痺等ヲ現ハス。

**療法** 胃洗、吐劑水片、咖啡「エーテル」樟腦、芥子貼付、食鹽水皮下注入等ヲ處ス。

**(二十一)綿馬中毒 Farnkrautvergiftung.**

綿馬中毒ハ專ラ綿馬根若クハ其製劑ヲ治療ノ目的ニ適用スルニヨリテ起ル。

**症候** 嘔氣、嘔吐、腹痛、下痢、振顫、「チアノーゼ」、搖擗、虛脫等ヲ現ハシ、又一時性弱視乃至持續性失明ヲ起スコトアリ。

**療法** 胃洗、牛乳、卵白水、阿片、興奮劑等ヲ處シ、油類ハ之ヲ用フベカラズ。

**(二十二) 魚肉中毒** Fischvergiftung.

魚肉中毒ハ主トシテ腐敗ニ傾ケル魚肉ヲ食用スルニヨリテ來ル。

**症候** 胃痛、嘔吐、煩渴、下痢、心窩苦悶、倦怠、瞳孔散大、調節機麻痺、複視、斜視等ヲ起シ又窒扶斯様若クハ虎列刺様症狀ヲ現ハシ來ルコトアリ。

**療法** 胃洗、吐劑及ビ下劑、興奮劑等ヲ處ス。

**(二十三) 肉中毒** Fleischvergiftung.

肉中毒ハ腐敗セル獸肉ノ食用ニヨリテ來ル、腸詰ニヨル中毒モ亦之ニ類ス。牛乳ニヨル中毒モ亦之ニ類スルコトアリ。

**症候** 六—二十四時間ノ潜伏期ヲ經テ劇烈ナル吐瀉、昏瞶、發熱、胸内苦悶、脈搏頻小、皮膚發疹、瞳孔縮小等ヲ起シ又譫妄、搖擗、腓腸痙攣等ヲ伴ヒ往々窒扶斯若クハ虎列刺ニ類スル症狀ヲ現ハス。

**療法** 胃洗、吐劑、下劑次デ阿片、興奮劑、溫浴等ヲ處ス。

**(二十四) 蟲刺** Insektenstich.

**症候** 刺口ニ於ケル疼痛、其附近ニ於ケル多少廣汎性腫起ヲ現ハス。

**療法** 刺端ノ尙ホ刺口ニ存スルトキハ注意シテ之ヲ除キ、刺傷部ニハ「アムモ

ニア」水ヲ塗布シ次デ氷罌法若クハ鉛水ノ罌法ヲ施ス。

**(二十五) 「ヨード」中毒** Jodvergiftung.

「ヨード」中毒ハ治療ノ目的ヲ以テ「ヨード」、「ヨードカリウム」、「ヨードフォルム」等ヲ適用スルニヨリテ來ル。

**症候** 流涎、鼻加答兒、頭痛、眩暈、昏瞶、喘息、聲門痙攣、嘔吐、衄血、蛋白尿、血尿、尿閉、虛脫等ヲ起シ又種々ノ發疹(「ヨード」疹 Jodkne)ヲ現ハシ遂ニハ「ヨード」惡液質 Jodkancerieヲ起シ來ル。

**療法** 先ヅ其休藥ヲ命ジ胃洗(次亞硫酸「ナトリウム」液 2.0:150.0ヲ用ヒテ)ヲ行ヒ蛋白、澱粉、曹達、重碳酸曹達等ノ内服ヲ命ズ、又腸胃加答兒ニハ對症療法ヲ行ヒ、聲門浮腫ニハ插管法若クハ氣管切開ヲ行フ。

**(二十六) 「コフエイン」中毒** Koffeinvergiftung.

咖啡及ビ茶ニヨリテ來ル中毒モ亦之ニ類ス。

**症候** 嘔吐、下痢、痙攣、煩渴、尿意頻促、心悸亢進、呼吸困難、不眠、下肢ノ拘攣等ヲ起ス。

**療法** 腸洗及ビ胃洗ヲ行ヒ兼テ抱水「クロラール」ノ内服(若クハ浣腸)ヲ處ス。

(二十七) クロール酸カリウム中毒 Potassiumchloridvergiftung.

本中毒ハ専ラ治療的薬用ニヨリテ來ル。

症候

嘔吐及ビ下痢、チアノーゼ、黄疸、尿閉、ヘモグロビン尿(尿ハ赤褐色乃至黑色トナル)、心臟衰弱、呼吸困難、脾臟及ビ肝臟腫大、尿毒症等ヲ現ハス。

療法

胃洗及ビ腸洗「アルカリ重碳酸ナトリウム」ノ大量内服、食鹽水注入、牛乳、氷片、阿片又一一五瓦ノ「ピロカルピン」皮下注射ヲ行フ。但シ酸及ビ炭酸含有飲料ヲ併用スベカラズ。

(二十八) 酸化炭素中毒 Kohlenoxydvergiftung.

酸化炭素ハ含炭素物質ノ燃燒不全ナルトキニ發生スルモノニシテ専ラ點火用

瓦斯 Leuchtgas ノ應用ニ際シテ之ヲ見ル。

症候

頭痛、眩暈、耳鳴、顫動脈ノ搏動、顔面潮紅、惡心、嘔吐、失神、知覺脫失、間代性及ビ強直性痙攣、便及ビ尿ノ失禁、麻痺等ヲ現ハシ、脈搏ハ最初頻數トナルモ後ニハ遅徐且ツ結代シ來リ、體温又沈降ニ次デ昇騰ヲ示シ來ル。呼吸ハ鼾息様トナリ昏睡ニ陥リ尿中ニハ還元性物質(酸化炭素糖尿病 Kohlenoxyddiabetes)現ハレ來ル。

療法

新鮮ナル空氣、酸素ノ吸入、人工呼吸、冷水灌漑、醋水洗腸、芥子泥貼用「アム

モニア」瓦斯ノ吸入、瀉血及ビ食鹽水注入、横隔膜神經ノ感傳電氣刺戟、興奮劑等ヲ處ス。

(二十九) 銅鹽中毒 Kupfersalzvergiftung.

銅鹽類ノ中毒ハ丹礬、綠青、綠色顔料等ニヨリテ起リ稀ニ嘔下セル銅片(又銅貨)ニ

ヨリテ來ル。

症候

帶綠乃至藍色吐物、鏽味、流涎、咽頭灼痛、疝痛、血性下痢、又硫化銅ノ形成ニヨリ帶赤褐色ノ糞便ヲ漏ス、裏急後重、鼓脹、尿閉、脱力、苦悶、呼吸困難、昏瞶、昏睡、麻痺等ヲ現ハシ或ハ又黄疸、齒齦ノ變色等ヲ見ルコトアリ。

療法

多量ノ水若クハ黄色血滲鹽ノ少許ヲ加ヘシモノヲ以テ胃洗ヲ行ヒ兼テ卵白、獸炭、木炭末、硫黃、鐵粉等ノ内服ヲ命ジ(但シ脂肪油類ヲ用フルヲ禁ズ)後ニ至レバ溫浴、發汗療法等ヲ處ス。

(三十) モルヒネ中毒 Morphinvergiftung.

阿片、阿片丁、幾其他ノ阿片製劑ニヨル中毒亦之ニ等シ。

症候

惡心、嘔吐、眩暈、嗜眠、昏睡、知覺脫出、發汗、脈搏及ビ呼吸遅徐、瞳孔縮小、尿閉、シヤインストツク氏呼吸等ヲ現ハス。

**療法** 冷水灌漑、頭部水罨法、醋水洗腸、芥子泥、タンニン酸液ヲ用ヒテノ胃洗、アトロピンノ皮下注射、人工呼吸、酸素吸入等ヲ處ス。

**(三十一) ニコチン中毒** Nikotinvergiftung.

「ニコチン」中毒ハ専ラ青年期ニ於テ煙草ヲ用フルニヨリテ來ル。

**症候** 口腔及ビ咽頭ニ於ケル灼熱、搔感、流涎、頭痛、眩暈、胸内苦悶、昏瞢、冷汗、瞳孔縮小、呼吸困難、脈搏頻小不整、四肢ノ厥冷、間代性痙攣等ヲ現ハス。

**療法** 「タンニン」酸液若クハ「ヨード」水（「リテル」ノ水ニ「ヨード」丁幾四十滴ヲ加フ）ヲ用ヒテノ胃洗、頭部ノ水囊、咖啡、アムモニアニス液、葡萄酒、皮膚刺戟、人工呼吸、石鹼洗腸等ヲ施ス。

**(三十二) 蓆酸中毒** Oxalsäurevergiftung.

**症候** 口腔ニ於ケル灰白色痂皮、血性吐物、腹痛、血性下痢、四肢ノ知覺異常、知覺鈍麻、痙攣、腎臟刺戟等ヲ見ル。

**療法** 先ヅ胃洗ヲ試ミ石灰水、糖石灰、粉碎セル卵殼白堊等ノ内服ヲ命ジ又氷片、卵白、阿片、興奮劑等ヲ處ス。

**(三十三) 石油中毒** Petroleumvergiftung.

**症候** 嘔吐、胃痛、下痢、疝痛、苦悶、眩暈、昏瞢、呼吸困難、昏睡、脈搏頻數、初メ沈降シ次テ昇騰シ來ル熱候等ヲ現ハス、呼氣ハ固有ノ石油臭ヲ放チ尿ハ莖菜様香氣ヲ呈スベシ。

**療法** 胃洗、吐劑、興奮劑等ヲ處ス。

**(三十四) 磷中毒** Phosphorvergiftung.

**症候** 嘔氣、嘔吐、下痢、吐物ハ蒜様臭氣ヲ放チ暗處ニ於テ光ヲ放ツ、爾後黄疸、血性下痢、肝臟腫大、體温上昇、脈搏頻小、蛋白及圓壻尿、種々ノ臟器ヨリノ出血、衰弱、昏睡等ヲ現ハシ來ル。

**療法** 先ヅ吐劑（硫酸銅）若クハ胃洗（〇・二%ノ過マンガン酸カリウム液ニテ）ヲ試ミ、陳久「レベリン」油（一日數回十—二十滴）燻製「マグネシア」粘漿性飲料、アルカリ水、麻醉劑等ヲ處ス。但シ脂肪及ビ油性物（牛乳モ亦）ハ禁。タルベシ。

**(三十五) 水銀中毒** Quecksilbervergiftung.

水銀中毒ハ諸種ノ水銀化合物殊ニ昇汞（稀ニ甘汞）ノ藥用ニヨリテ來ル。

**症候** 急性。症ハ嘔吐時アリテ血性嘔吐、口内炎、齒齦腫起、血性下痢、裏急後重、尿閉、蛋白尿、失神、知覺鈍麻、虛脫等ヲ現ハス。尙ホ昇汞ノ服用ニ際シテハ口腔及ビ咽

頭粘膜ノ腫起及ビ灰白色痂皮ヲ形成スベシ。

慢性水銀中毒ハ主トシテ劇シキ驅微療法ニヨリテ來ルモノナレバ一般ニ小兒ニ在リテハ稀有ニ屬ス、而シテ其症狀ハ口内炎、惡液質、震顫等ヲ現ハス。

**療法**

急性中毒ニ際シテハ胃洗ヲ行ヒ卵白、牛乳、木炭煨製、マグネシア等ヲ與ヘ「クロール酸カリウム」ノ含嗽ヲ命ズ。但シ昇汞ノ尙ホ胃中ニ存スル間ハ食鹽ヲ與フルハ禁忌タルベシ。

慢性中毒ニ對シテハ溫浴ヲ命ジ「ヨードカリウム」ノ内服ヲ處ス。

**三十六**「サリチール」酸中毒 *Salicylsäurevergiftung.*

**症候**

胃腸加答兒、譫妄、興奮、昏睡、瞳孔縮小、黑内障、耳鳴、聾等ヲ發起ス。診斷上尿中ノ「サリチール酸」ヲ檢定スルニハ過「クロール」鐵液ヲ注加スベシ「サリチール」酸ノ存在ニ於テハ持續性藍紫色ヲ呈シ稀釋セルモノニテハ紫紅色ヲ現ハスベシ。

**療法**

炭酸アルカリヲ内服セシメ兼テ溫飲料ノ攝取、溫浴又「ピロカルピン」ノ皮下注射等ニヨリテ發汗ヲ促シ興奮劑ヲ處ス。

**三十七**「サントニン」中毒 *Santoninvergiftung.*

「サントニン」中毒ハ專ラ驅蟲ノ目的ニ「サントニン」ヲ用フルニヨリテ來ル。

**症候**

嘔氣、嘔吐、黃視症、黃疸、下痢、昏瞶、眩暈、幻覺、搐搦等ヲ現ハス尿ハ帶綠黃色トナリ之ニ「アルカリ」例ヘ「バカリ」鹼液ヲ加フルトキハ猩紅色ヲ呈ス。

**療法**

胃洗、腸洗、吐劑「アルカリ」水、醋水洗腸等ヲ行ヒ又抱水「クロラール」、興奮劑等ヲ處ス。

**三十八**酸中毒 *Zinnvergiftung.*

酸中毒即チ硫酸、硝酸鹽酸等ノ鑛酸ニヨル中毒ハ殆ド相類セル症狀ヲ呈シ來ル。

**症候**

口腔殊ニ口角ニ於テ甚シニ於ケル腐蝕及ビ炎症症狀劇烈ナル胃痛胃ニ於テハ殊ニ小彎及ビ幽門附近侵害セラレ、煩喝、嘔吐、硫酸中毒ニ際シテハ帶黑色、硝酸中毒ニ際シテハ帶黃色ヲ呈セル吐物ヲ現ハス、疝痛、下痢、鼓脹、強酸性尿ノ疼痛性排泄、蛋白尿、血尿、搐搦、脈搏頻小、皮膚厥冷、體溫沈降、虛脫等ヲ起シ來ル。爾後腐蝕部(食道、幽門等)ノ狹窄ヲ續發スベシ。

**療法**

先ヅ大量ノ水、卵白水若クハ緩性アルカリ(假製「マグネシア」、木灰浸液、石鹼水等)ヲ用ヒテ酸ノ稀釋乃至中和ヲ試ミ尙ホ又氷片、粘漿劑、麻醉劑、興奮劑等ヲ處ス。



但シ最初ニ於テ胃管ヲ挿入スルハ禁忌タルベシ。

**(三十九) 蛇毒中毒** Schlangengiftvergiftung.

**症候**

咬傷部及び其附近ノ疼痛性腫脹及び帶青色甚ダ速ニ全肢其他ノ體部ニ蔓延スルヲ見ル。發汗、呼吸困難、蛋白尿、皮膚出血、心臟衰弱、麻痺等ヲ起ス。

**療法**

咬傷ヲ受ケタル部ノ上方ニ於テ其肢ヲ結紮シ咬傷部ヨリ傷液ヲ吸出且ツ壓出シ(或ハ咬傷部ニ切創ヲ加ヘテ後チ吸角貼付)尙ホ咬傷部及び其附近ニ新製「クロール」石灰液(六十倍液)八—十錠ヲ注射シ或ハ過「マンガン」酸「カリウム」液(一%)「クロール」金液(一%)等ヲ注射シ以テ未ダ吸收セラレザル毒物ヲ破壊ス。或ハ又石炭酸、熔鐵等ヲ用ヒテ咬傷ノ腐蝕ヲ行ヒ興奮劑殊ニ多量ノ酒精ニ數滴ノ「アムモニア」ヲ加ヘテ内服セシメ、ストリキニーネノ皮下注射、人工呼吸等ヲ處ス。又近時血清療法ニヨリテ效果ヲ得ルニ至レリ。

飯匙蛇毒血清ハ現時我傳染病研究所ヨリ製出發賣セラレ、治療血清ニシテ一壺ノ内容四十錠(但シ此量ハ大人量ナレバ小兒ニハ適宜減量ヲ要ス)ヲ一回ニ注射シ症狀ノ劇甚ナルトキハ反覆注射スベシ。注射ノ部位ハ成ルベク咬傷ヲ受ケタル局部ノ近傍ヲ選ブベシト雖モ若シ其部位ニシテ注射ニ不便ナルトキハ胸側、大腿内側若クハ上膊ノ皮下ニ注射スベシ。

蛇毒血清又カルメット氏「アンチヴエニン」Serum antivienens, Antivenin nach Calmette. 本血清ハ「コブラ」毒ニヨリテ免疫セル馬及び驢馬ノ血清ニシテ小兒ニハ一回一〇〇錠、大人ニハ二〇〇錠ヲ大腿皮下ニ注射シ其症狀劇烈ナルトキハ反覆シテ注射スベシ。本血清ハ咬傷後成ルベク速ニ(一時間半以内)注射スベク、カクスルトキハ他種ノ蛇毒ニ對シテモ効アリト云フ。

**(四十) 菌毒中毒** Schwämmevergiftung.

本中毒ハ諸種有毒菌(ツキヨダケ、ヤナギダケ、ハイトリダケ、ベニタケ等)ノ食用ニヨリテ來ル。

**症候**

惡心、流涎、發汗、嘔吐、下痢、腸胃加答兒、眩暈、胸内苦悶、脈搏遲徐、視力障礙、搐搦、尿閉、昏睡等ヲ現ハス。

**療法**

吐劑若クハ胃洗「アトロピン」注射、興奮劑、輸血法若クハ食鹽水皮下注入等ヲ施ス。

**(四十一) 銀鹽中毒** Silbersalzevergiftung.

銀鹽中毒ハ專ラ硝酸銀ノ治療的藥用ニヨル。

**症候**

口腔粘膜炎ニ於ケル白色痂皮、腹痛、嘔吐、吐物ハ白色ノ塊ヲ爲シ日光ニ遭フテ漸次黑變ス、眩暈、搐搦、不全麻痺等ヲ現ハス。

**療法** 食鹽水ニテノ胃洗、食鹽水、卵白、牛乳等ノ内服ヲ處ス。

**(四十二)「ゾラニン」中毒 Solaninvergiftung.**

「ゾラニン」ハ馬鈴薯ノ苗芽中ニ含有セラル、ヲ以テ未熟ノ馬鈴薯ヲ食用スルニヨリテ本中毒ヲ見ル。

**症候** 嘔吐、疝痛、猩紅熱様發疹、嚙下困難、失語症、搐搦、脈搏頻速、呼吸困難、瞳孔散大、括約筋麻痺、昏睡等ヲ起シ來ル。

**療法** 完全ナル胃洗、タンニン(一%)、蒼鉛劑、デルマトール、興奮劑等ヲ處ス。

**(四十三)「ストリキニーネ」中毒 Strychninvergiftung.**

**症候** 四肢ノ牽引、項部強直、輕度ノ搐搦等ヲ起シ、次テ特發乃至反射性強直發作、牙關緊急、筋痛、苦悶、不安、發作時ニハ瞳孔散大及ビ「チアノーゼ」ヲ現ハス、サレド一般ニ意識ハ侵害セラル、コトナシ。尿中ニハ「ストリキニーネ」蛋白、糖等現ハレ來ル。

**療法** 先ヅ胃洗(タンニン酸液)若クハ吐劑(アボモルヒネ)ヲ處シ、次テ蓖麻子油ヲ内服セシメ又咖啡、「タンニン」、「ヨード」水、抱水「コロラール」等ヲ投與シ、尙ホ人工呼吸、食鹽水皮下注入、發汗療法等ヲ施スベシ。

**(四十四)河豚中毒 Tetradonvergiftung.**

河豚中毒ハ專ラ河豚ヲ食用スルニヨリテ來ル、但シ河豚ノ毒素ハ主トシテ卵巢中ニ存シ、又肝臟及ビ睾丸ニモ含有セラル、爾他ノ臟器若クハ血液ノ中ニハ僅微ノ毒素ヲ含有スルニ過ギズ。

**症候** 嘔吐、頭痛、眩暈、知覺異常、舌運動及嚙下ノ困難、脈搏及呼吸ノ遲徐、「チアノーゼ」、四肢厥冷、瞳孔散大、嗜眠、虛脫等ヲ現ハス。

**療法** 吐劑殊ニ鹽酸「アボモルヒネ」ノ注射ヲ行ヒ兼テ人工呼吸、「ストリキニーネ」若クハ「カンフル」注射ヲ施スベシ。

**(四十五)亞鉛鹽中毒 Zinksalzvergiftung.**

本中毒ハ皓礬若クハ「クロール」亞鉛ノ藥用ニヨリテ來ル。

**症候** 口腔粘膜ノ腐蝕、鏽味、流涎、烈シキ嘔吐、白色乃至血性吐物、咖啡様褐色便、腓腸痙攣、虛脫等ヲ現ハス。

亞鉛鹽ノ慢性中毒ニ際シテハ嘔吐、疝痛、便秘、貧血、羸瘦等ヲ現ハシ來ル。

**療法** 急性中毒ニハ先ヅ牛乳卵白、「タンニン」、炭酸若クハ磷酸「アルカリ」ヲ投與シ、次テ胃洗ヲ行フベシ。

慢性中毒ニ對シテハ其藥用ヲ禁ジ、緩下劑及ビ發汗劑ヲ處スベシ。

# 附 録

## 第一 藥物極量表

本表ハ各藥物其一回極量ノ相等シキ者ヲ集メテ一類トナシ其量ノ少キモノヨリ遞次多キモノニ及ブノ順序ニテ羅列セリ

**注意** 醫師其處方箋ノ下特ニ注意標( )ヲ記スルニアラザレバ此量ヲ超ヘテ處方スルヲ許サズ(日本藥局方)

藥 物	一回極量	一日極量	藥 物	一回極量	一日極量
硫酸「アトロピン」	〇・〇〇一	〇・〇〇三	「グエラトリン」		
「プローム」水素酸「ホマトロピン」			鹽酸「サアセチールモルヒネ」	〇・〇一	〇・〇三
「サリチール酸」フイゾスチグミン			「アコニツト」莖莖斯	〇・〇一五	〇・〇五
硫酸「フイゾスチグミン」					
亞砒酸	〇・〇〇五	〇・〇一五	鹽酸「アポモルヒネ」		
「ヨード」砒素			「カラバル」豆莖莖斯		
硝酸「ストリキニーネ」			昇水		
			赤色「ヨード」水		

黄色「ヨード」水 黄色酸化汞 赤色酸化汞 「サリチール」酸汞 「ヨード」	硝酸銀 熔製硝酸銀 鹽酸「モルヒネ」 硫酸「モルヒネ」	番木鱈越幾斯 「カンタリス」 鹽酸「コカイン」 萘岩越幾斯 「コロシント」越幾斯 巴豆油	番木鱈 「アガリチン」
〇・〇二	〇・〇三	〇・〇五	〇・二
〇・〇六	〇・一	〇・一五	〇・一五
石炭酸 稀青酸 磷酸「コデイン」 印度大麻越幾斯 「ヒヨス」越幾斯 萘岩根 「ロベリア」草 醋酸鉛 「ボドフィルム」脂 「サントニン」	阿片越幾斯 阿片 麥角越幾斯 「ヨードフォルム」 金硫黃 吐酒石 「ヨード」丁幾 「チギタリス」葉	番木鱈丁幾 硫酸銅 硫酸亞鉛 「フエナセチン」 「ヤラツバ」脂 「コロシント」丁幾 「ロベリア」丁幾 萘岩丁幾 麥角 安息香酸「ナトリウムカフエイン」 「サリチール」酸「ナトリウムカフエ イン」 「チギタリス」丁幾 阿片丁幾 芳香阿片酒	
〇・一	〇・一五	〇・一	
〇・三	〇・五	〇・六	
二	〇・五	〇・六	一・〇

「アローム」樟腦 萘酸「セリウム」 「ヒヨス」葉 「グアヤコール」 藤黃	「アセトアニリド」 「アンチピリン」 「クレオソート」 「カフエイン」 「ヂメチールアミトアンチピリン」 （「ピラミドン」） 商陸越幾斯 「コロシントヒヨス」丸 「カンタリス」丁幾 「ゲルセミウム」丁幾 「ストロファンツス」丁幾 「ヨード」砒素水液「ドノウアン」液 亞砒酸「カリウム」液（「ホーレル」水）
〇・三	〇・五
一・〇	一・五
番木鱈丁幾 硫酸銅 硫酸亞鉛 「フエナセチン」 「ヤラツバ」脂 「コロシント」丁幾 「ロベリア」丁幾 萘岩丁幾 麥角 安息香酸「ナトリウムカフエイン」 「サリチール」酸「ナトリウムカフエ イン」 「チギタリス」丁幾 阿片丁幾 芳香阿片酒	
一・〇	一・五
三・〇	五・〇
二・〇	六・〇
三	五・〇

「メチールズブルフオナール」(「トリオナール」)	二〇	抱水「コロラール」	四	六〇
「ブルフオナール」	四〇	「コルヒクム」丁機		
苦扁桃水		「コルヒクム」酒		
杏仁水		「パラアルデヒド」	五〇	一〇〇
「バクチ」水				

第二 小兒藥用量算出表

此目的ニ應用セラル、方法種々アリ、ガウピウス氏ニ從ヘバ次ノ如シ。

年 齡	藥 用 量
(二十一—六十歲)	一)
二十一—十四歲	三分ノ二
十四—七歲	二分ノ一
七—四歲	三分ノ一
四—三歲	四分ノ一
三—二歲	六分ノ一

二 — 一歲 八分ノ一  
 一歲以下 十三分ノ一—十五分ノ一

又ヤング氏ニ從ヘバ大人ノ用量ヨリ次式ニヨリテ小兒ニ與フル量ヲ計算セリ。  

$$X = \frac{n}{n+12}$$
 式中Xハ所要ノ藥用量、nハ小兒現在ノ年齢數ナリ、即チ三歲ノ小兒ハ  $\frac{3}{3+12} = \frac{1}{5}$  大人量ノ五分ノ一、又六歲ノ小兒ハ  $\frac{6}{6+12} = \frac{1}{3}$  大人量ノ三分ノ一ヲ用フベキガ如シ。  
 其他フーランド氏ハ次ノ標準ヲ示セリ。

年 齡	藥 用 量
(二十五—五十歲)	一〇〇)
二十一—二十五歲	八七五—一〇〇
十一—二十歲	六二五—八七五
五—十歲	五〇—六二五
四—五歲	四五—五〇
二—三歲	三二五—四〇

一—二歳	二五—三二五
九—十一月	二二五—二五
七—九月	一七五—二〇
五—七月	一五—一七五
三—五月	一二五—一五
二—三月	一〇—一二五
一—二月	五—一〇
〇五—一月	一二五—五

第三 小兒藥物極量表

小兒ニ藥物ヲ處方スルニ當リテハ特種ノ事情ノ存スルナクバ次ノ藥用量(一回量)ヲ超ヘテ用フベカラズ。

藥物名目	一歳以下	一—二歳	三—四歳	五歳	八歳迄	十二歳迄
海葱醋	—	—	五滴	一〇滴	一二滴	二〇滴

安息香酸	—	〇〇一	〇〇三	〇〇四	〇〇五	〇〇六
「タ」ニ「ン」酸	—	〇〇五	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇二
「エ」テ「ル」	—	一二滴	三滴	四滴	五滴	八滴
「ア」チ「ピ」リン	〇一	〇二	〇三	〇四	〇五	〇五
鹽酸「ア」ボ「モ」ル「ヒ」ネ	—	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇五
苦扁桃水	一滴	二滴	三滴	五滴	八滴	十二滴
硝酸銀	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇五	〇〇七	〇〇一
硫酸「ア」ト「ロ」ピ「ン」	—	〇〇〇一	〇〇〇一	〇〇〇二	〇〇〇三	〇〇〇三
次硝酸「ア」ロ「モ」フ「オ」ル「ム」	〇〇五	〇〇五	〇一	〇二	〇三	〇五
樟腦	二滴	三滴	三—四滴	四—五滴	五—六滴	六滴
鹽酸「キ」ニ「ー」ネ	〇〇一	〇〇一五	〇〇二	〇〇二	〇〇三	〇〇三
「タ」ニ「ン」酸「キ」ニ「ー」ネ	〇〇二	〇〇五	〇一五	〇三	〇五	〇七五
抱水「ク」ロ「ラ」ール	〇一	〇二	〇二五	〇四	〇五	〇六
磷酸「コ」デ「イ」ン	〇〇〇二	〇〇二	〇〇三	〇〇五	〇〇八	〇一
「コ」デ「イ」ン	—	—	〇〇一	〇〇二	〇〇四	〇〇五
硫酸銅	—	〇一	〇一	〇一五	〇三	〇三
「ペ」ラ「ド」ン「ナ」越「幾」斯	—	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五

綿馬越幾斯(注意セヨ)	一	一〇	二〇	二〇	三〇	五〇
還元鐵	一	〇〇二	〇〇三	〇〇五	〇〇一	〇〇五
「シナ」花	〇二	〇三	〇五	一〇	二〇	二〇
「サギタリス」葉	〇二	〇三	一〇	一〇	二〇	二〇
甘汞	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五
「マンニン」酸	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五
「アロームカリウム」	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五
「ヨードカリウム」	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五	一〇
「クレオソート」	〇〇〇五	〇〇一	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三
亞砒酸「カリウム」液	一	一滴	一滴	一滴	二滴	三滴
鹽酸「モルヒネ」	〇〇一	〇〇〇五	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三
麝香	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五
「ナフタリン」	〇〇五	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五
「サリチール」油	二滴	三滴	五滴	七滴	九滴	十滴
阿片	一	〇〇二	〇〇三	〇〇五	〇〇一	〇〇二
「アエナセチン」片	一	〇〇一	〇〇五	〇〇一	〇〇一	〇〇三
鹽酸「ピロカルピン」	一	〇〇〇五	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三

醋酸鉛	一	〇〇二	〇〇五	〇〇八	〇〇一	〇〇二	〇〇五
「ト」散	一	〇〇三	〇〇五	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇五
吐根	一	〇〇一	〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇三	〇〇五
「ヨード」含利別	一滴	三滴	五滴	八滴	十滴	十五滴	〇〇五
「タンニゲ」石	〇二	〇二五	〇三	〇三	〇五	〇五	〇〇一五
吐酒	一滴	〇〇七五	〇〇七五	〇〇一	〇〇一	〇〇一五	〇〇一五
阿片安息香丁機	二滴	三滴	四滴	六滴	八滴	十滴	十五滴
阿片丁機	一	半滴	一滴	二滴	三滴	五滴	十滴
「ストロファンツス」丁機	一	一滴	一滴	二滴	三滴	五滴	十滴
番木鱈丁機	一滴	一滴	一滴	二滴	三滴	五滴	十滴
「トリオナー」	一	二滴	一滴	一滴	一滴	一滴	一滴
「ツ」	〇〇七五	〇一	〇一	〇一五	〇二五	〇三五	〇七五
吐根酒	〇〇五	〇一	〇二五	〇一五	〇二五	〇三五	〇七五
吐石酒	一茶匙宛與へ嘔吐ヲ催スニ至ル	〇一	〇一	〇二	〇三	〇五	〇七五

第四 皮下注射薬表

薬物名目	應用ノ方法	用 量
「エーテル」	純品若クハ樟腦油ノ等分混和液	半筒宛 (プラフツツ氏注射器)
鹽酸「アボモルヒネ」	0.005:10.0ノ水溶液	〇・五—一〇 瓩
硫酸「アトロピネ」	0.0005:10.0ノ水溶液	〇・二—一〇 瓩
樟 腦	1.0:9.0ノ「オレーフ」油溶液	1/4—半筒宛
安息香酸「ナトリウムカフェイン」	二%ノ水溶液	〇・五—一〇 瓩
「ヂガイレ」	純品	〇・二—一〇 瓩
「ヂフテリア」血清	純品	約五〇 瓩
「エルゴチン」	1.0:10.0ノ「グリセリン」水等分溶液	半—一筒宛
昇 汞	0.01:10.0 蒸餾水、一〇食鹽	半筒宛
鹽酸「ヒロカルビン」	0.3—0.05:10.0ノ水溶液	1/3—一筒宛

硝酸「ストリヒニーネ」	0.005—0.02:10.0ノ水溶液	1/3—一筒宛
-------------	---------------------	---------

第五 含嗽劑

醋	二倍稀釋液	〇・五—一%
安息香酸	一%	〇・一—〇・五%
硼酸	二—四%	〇・五—二%
「タンニン」酸	〇・五—一%	〇・二五—〇・五%
「アルゾール」	一—二%	五—一〇%
明礬	〇・五—一%	一—二%
醋酒石酸「アルミニウム」	一—二%	一—二%
石灰水	純品若クハ等分稀釋液	一—三%
硼砂	二—五%	一—三%
「ヒノゾール」	〇・五—一%	〇・五%
「アルテア」根煎	一〇—二〇%	一%
昇汞	〇〇・二—〇〇・五%	一%
「ヨードカリウム」	〇・五%	一%
硝酸「カリウム」	〇・五—一%	〇・五—一%
過「マンガン」酸「カリウム」	〇・一—〇・五%	〇・一—〇・五%
醋酸「アルミニウム」液	〇・五—二%	〇・二五—〇・五%
「リゾール」	〇・二五—〇・五%	五—一〇%
安息香酸「ナトリウム」	五—一〇%	一—二%
重炭酸「ナトリウム」	一—二%	一—二%
食鹽	一—二%	一—二%
「ベルヒドロール」	一—三%	一—三%
「レゾルチン」	一—三%	一—三%
「チモール」	〇・五%	〇・五%
「ミルラ」丁幾	一%	一%
「ラタニア」丁幾	一%	一%

第六 吸入劑



硼酸

二一四%

「口炭酸

一%

タンニン酸

〇五—二%

明礬

一—二%

炭酸「アムモニウム」

〇五%

「クロールアムモニウム」

〇五%

「ズルフイヒチオール酸」「アンモニウム」

二%

石灰水

純品若クハ十倍液

「タール」水

二十五倍乃至倍液

第七 浣腸劑

醋

一食匙ヲ水五〇〇珽ニ和シ浣腸

「サリチール酸

一—一五%

「タンニン酸

〇五—二%

明礬

一—二%

澱粉

半茶匙ヲ冷水ニ混和シ四—五食匙ノ熱湯ヲ加フ。

硼砂

一%

「グリセリン」

純品若クハ十倍液

「アロームカリウム」

一—二—四%

過「マンガン酸」「カリウム」

〇一—〇二%

炭酸「リチウム」

〇五—一%

重炭酸「ナトリウム」

〇五—一%

炭酸「ナトリウム」

〇五%

「クロールナトリウム」

一%

「ピリヂン」

一〇%

「チモール」

〇五%

石灰水

純品

硝酸銀

〇〇五—〇一%

鹽酸「キニーネ」

一%

抱水「クロラール」

0.5:50.5「サレツプ漿

「グリセリン」純品(二〇—五〇)若クハ稀釋液

昇汞 〇一%

醋酸「アルミニウム」液

二〇—三〇%

「リゾール」

〇二五%

「メントール」

0.1:20.0

「ナフタリン」

1:10:40.0「オレーフ油(燒蝕)

安息香酸「ナトリウム」

一%

食鹽

一%

第八 坐劑

「ペラドンナ」越幾斯

0.01—0.03:2.0「カ、オ脂

阿片越幾斯

0.01—0.05:2.0「カ、オ脂

「クアシア」越幾斯

0.06—0.18:2.0「カ、オ脂

麥角越幾斯

0.1:2.0「カ、オ脂

第九 三氏檢溫比較表

攝氏	華氏	氏列	氏
四五	一一三		三六
四四	一一一・一一		三五・二

攝氏	華氏	氏列	氏
四三	一〇九・四		三四・四
四二	一〇七・六		三三・六

四一	一〇五・八	三二・八	二五	七七	二〇
四〇	一〇四	三二	二四	七五・二	一九・二
三九	一〇二・二	三一・二	二三	七三・四	一八・四
三八	一〇〇・四	三〇・四	二二	七一・六	一七・六
三七	九八・六	二九・六	二一	六九・八	一六・八
三六	九六・八	二八・八	二〇	六八	一六
三五	九五	二八	一九	六六・二	一五・二
三四	九三・二	二七・二	一八	六四・四	一四・四
三三	九一・四	二六・四	一七	六二・六	一三・六
三二	八九・六	二五・六	一六	六〇・八	一二・八
三一	八七・八	二四・八	一五	五九	一二
三〇	八六	二四	一四	五七・二	一一・二
二九	八四・二	二三・二	一三	五五・四	一〇・四
二八	八二・四	二二・四	一二	五三・六	九・六
二七	八〇・六	二一・六	一一	五一・八	八・八
二六	七八・八	二〇・八	一〇	五〇	八

尙ホ華氏檢温ノ度ヲ攝氏ニ改算シ(a)或ハ反對ニ攝氏ノ度ヲ華氏ニ改算(b)セン  
ト欲セバ次式ニヨリテ計算スベシ。

$$C = (F - 32) \frac{5}{9} \dots\dots\dots (a)$$

$$F = \frac{9}{5} C + 32 \dots\dots\dots (b)$$

但シ該式中Cハ攝氏ニヨル度盛Fハ華氏ニヨル度盛ヲ表ス。

又列氏檢温ノ度ヲ攝氏ニ改算シ(c)或ハ反對ニ攝氏ノ度ヲ列氏ノニ改算(d)セン

ト欲セバ次式ニヨルベシ。

$$C = \frac{5}{4} R \dots\dots\dots (c)$$

$$R = \frac{4}{5} C \dots\dots\dots (d)$$

但シRハ列氏ニヨル度盛ヲ現ハスモノナリ。

### 第十 處方集

#### (一) 收斂劑 Adstringentia.

○白陶土 (甲)内用

附 録

一・〇

縮 水  
單舍利別  
右毎二時一匙宛

○硝酸銀 〇・〇五—〇・一

一五

八〇〇  
二〇〇

〇 縮 水 一〇〇〇  
 「グリセリン」  
 單舍利別 二〇〇  
 右混和毎二時一兒匙宛 二〇〇  
 〇 「タンナルビン」 〇五―一〇  
 白 糖 〇三  
 右散一包量一日三回一包宛 〇五―一〇  
 〇 「タンニ―ゲン」 〇五―一〇  
 白 糖 〇三  
 右散一包量一日三回一包宛 〇五―一〇  
 〇 「タンノコール」 〇二―一〇五  
 白 糖 〇二  
 右散一包量一日三回一包宛 〇二  
 〇 次硝酸蒼鉛 〇二五  
 白 糖 〇三  
 右散一包量一日三回一包宛 〇二五  
 〇 「ビスモン」 五〇  
 縮 水 一〇〇〇

右混和一日三回一〇〇宛宛  
 〇 醋酸鉛 〇〇〇三―一〇〇五  
 白 糖 〇三  
 右散一包量一日三回一包宛 〇三  
 〇 醋酸鉛 〇〇一  
 縮 水 一〇〇〇  
 單舍利別 一〇〇  
 右混和毎二時一茶匙宛 一〇〇  
 〇 醋酸鉛 〇〇〇七五―一〇〇一五  
 「ドーフル」散 〇〇二―一〇〇五  
 白 糖 〇三  
 右混和散一包量毎三時一包宛 〇三  
 〇 「コト」丁幾 一〇―一五  
 縮 水 一〇〇〇  
 單舍利別 二〇〇  
 右混和毎二時一兒匙宛 二〇〇  
 〇 カスカリラ丁幾 一〇―一五  
 縮 水 一〇〇〇

單舍利別

右混和毎二時一兒匙宛

(乙)外用

〇 白陶土 五〇〇  
 縮 水 五〇〇  
 右腸洗料 五〇〇  
 〇 「タンニン」酸 二〇―一五〇  
 縮 水 五〇〇  
 右腸洗料 五〇〇  
 〇 硝酸銀 〇五―一五  
 縮 水 一〇〇〇  
 右腸洗料 一〇〇〇  
 〇 醋酸アルミニウム液 二五―一五〇  
 縮 水 五〇〇  
 右腸洗料 五〇〇  
 〇 醋酸鉛 五〇  
 縮 水 一〇〇〇  
 右腸洗料 一〇〇〇

〇 鉛 水

右外用、罨法料。

〇 醋酸アルミニウム液 二〇〇―一五〇〇  
 縮 水 一〇〇〇  
 右罨法料 一〇〇〇  
 〇 醋酸石酸アルミニウム 一〇―一二〇  
 縮 水 一〇〇〇  
 右罨法料 一〇〇〇  
 〇 「タンニン」酸 一〇―一三〇  
 縮 水 二〇〇〇  
 右混和、咽頭粉霧料 二〇〇〇  
 〇 「タンニン」酸 一  
 「グリセリン」 一  
 縮 水 一〇〇〇  
 右混和、咽頭粉霧料 一〇〇〇  
 〇 「タンニン」酸 〇一五―一〇二  
 「カ、オ脂」 一〇  
 右座薬一個量一日二―三回一個宛 一〇

- 硝酸銀 一〇一〇一三〇
- 餾水 一〇〇〇
- 右混和塗布料(肉芽及ビ粘膜ニ)
- 「ミルラ」丁幾 各二五〇
- 「ラタニア」丁幾 各二五〇
- 右塗布料粘膜)
- 硫酸亞鉛 〇一五
- 餾水 一五〇
- 右點滴料(結膜)

(二) 止痢劑 Antidiarrhoea.

此内ニハ所謂腸消毒劑ヲモ含畜ス。

- 乳酸 〇三一〇五一〇
- 餾水 八〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右每二時一兒匙宛
- 稀鹽酸 〇五一〇
- 餾水 一〇〇〇

- 單舍利別 二〇〇
- 右每二時一兒匙宛
- 稀鹽酸 〇五一〇
- 餾水 一〇〇〇
- 阿片丁幾 一三滴
- 右每二時一兒匙宛
- 甘汞 〇〇〇七五一〇〇一〇〇五
- 乳糖 〇三
- 右散一包量每一時一包宛
- 「レゾルチン」 〇〇五一〇一〇五
- 餾水 一〇〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和、每二時一兒匙宛
- 「ザロール」 〇二一〇三
- 白糖 〇三
- 右散一包量、每三時一包宛
- 次硝酸蒼鉛 〇〇五一〇一〇三
- 白糖 〇三

- 右散一包量、每時一包宛
- 次硝酸蒼鉛 一〇一三〇
- 「ドーフル」散 〇二二一〇五
- 白糖 三〇
- 右混和散十二包ニ分チ每二時一包宛
- 「クレオソート」 〇〇五
- 酒精 〇五
- 「ザレツ」漿 一〇〇〇
- 右混和每二時一茶匙宛
- 「コロネ」根煎 (五〇) 一〇〇〇
- 阿片丁幾 三滴
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和每二時一兒匙宛

(三) 驅蟲劑 Antiparasitica.

- 「サントニン」 〇〇〇七五一〇〇三
- 白糖 〇三
- 右混和散一包量、一日二一三回一包宛

- 「サントニン」錠 〇〇二五一〇〇五
- 右三日間連續シテ時刻一―二錠宛服用
- 「サントニン」 〇〇〇七五一〇〇三
- 甘汞 〇〇一〇〇三
- 乳糖 〇三
- 右混和散一包量朝夕一包宛
- 「コソ」花 一〇〇一―一五〇
- 餾水 一三〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和全量ヲ三分シ每半時一回宛服用
- 綿馬越幾斯 一五―三〇
- 精製蜂蜜 三〇〇
- 右混和全量ヲ三分シ三回ニ服用

○石榴根 一〇〇一三〇〇  
 縮水 三〇〇〇  
 右十二時間冷浸シ更ニ之ヲ煎沸濾過  
 シ一八〇〇トナシ  
 單舍利別 三〇〇  
 右全量ヲ三分シ一時間内ニ服用。  
 ○「コソ」花 一〇〇〇一五〇  
 綿馬越幾斯 六〇一八〇  
 縮水 一〇〇〇  
 右混和全量ヲ三分シ一時間半内ニ服  
 用。  
 ○「カマラ」 五〇一〇〇  
 「タマリンド」  
 單舍利別 各五〇  
 右混和一時間内ニ服用。  
 ○「タンニン」酸「ベルレチエリン」 〇三  
 縮水 四〇〇  
 「アンナ」舍利別 一〇〇

右混和二回ニ分服シ半時間後ニ蓖麻  
 子油一兒匙ヲ服用セシム。  
 ○「チモール」 〇一〇三〇五  
 右散一包量「オブラート」若クハ膠囊ニ  
 入レ頓用。  
 ○「ナフタリン」 〇一〇四  
 白糖 〇三  
 右散一包量等量十個ヲ與ヘ一日四回  
 一包宛二日間服用。  
**(四) 解熱劑 Antipyretica.**  
 ○硫酸「キニーネ」 〇五一一〇一五  
 縮水 一〇〇〇  
 覆盆子舍利別 二〇〇  
 右混和毎二時一兒匙宛。  
 ○「サリチール」酸「ナトリウム」 一〇一〇一三〇  
 縮水 一〇〇〇

橙皮舍利別

二〇〇  
 右混和毎二時一兒匙宛。  
 ○「アンチピリン」 〇五一一〇一二〇  
 縮水 一〇〇〇  
 單舍利別 二〇〇  
 右混和毎二時一兒匙宛。  
 ○「アンチピリン」 〇一〇三  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三―四回一包宛。  
 ○「ザリピリン」 〇二一〇五  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三―四回一包宛。  
 ○「アスピリン」 〇一〇五  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三―四回一包宛。  
 ○「ザロール」 〇二一〇五  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三―四回一包宛。

○「アンチフェブリン」 〇〇三一一〇一  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三―四回一包宛。  
 ○「フェナセチン」 〇三  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三―四回一包宛。

(五) 驅微劑 Antispythica.

○甘 汞 〇〇一五一一〇三一一〇五  
 白糖 〇三  
 右散一包量一日三回一包宛。  
 ○灰白軟膏 〇五一一〇一一五  
 右塗擦料。  
 ○可溶性水銀 一〇  
 「ラノリン」 三〇〇  
 右分十包一日一回一包宛塗擦  
 ○黄色「ヨード」汞 〇〇〇五一一〇〇一  
 白糖 〇三

- 右散一包量一日二回一包宛 四〇一六〇
- 昇 汞 二〇〇〇
- 右混和毒藥ノ記號ヲ附シ與ヘ其四分ノ一ヲ一兒浴ニ加フ。
- 昇 汞 〇〇二一〇〇五
- 食 鹽 一〇〇
- 縮 水 一〇〇〇
- 右皮下注射料(半一筒宛)。
- 白降汞 〇〇五〇一〇二二
- 「ワゼリン」
- 「ラノリン」 各一〇〇
- 右混和軟膏トナシ外用。
- 黄色酸化汞 〇〇三一〇〇五〇一
- 「ワゼリン」
- 「ラノリン」 各一〇〇
- 右混和軟膏トナシ外用。
- ヨード鐵舍利別 一〇〇

- 單舍利別 九〇〇
- 右混和一日三回一茶匙宛。
- 加糖ヨード鐵 〇〇三一〇〇五〇一
- 白 糖 〇三
- 右散一包量一日三回一包宛。
- ヨードカリウム 〇五一〇一〇二〇
- 縮 水 一〇〇〇
- 「メント」水 二〇〇
- 右混和一日三回四回一兒匙宛。

(六) 消毒劑 Desinfectantia.

- 硼 酸 五〇
- 「ラノリン」 二〇〇
- 「バラフィン」軟膏 三〇〇マデ
- 右混和軟膏トナシ外用。
- 硼 酸 四〇
- 縮 水 二〇〇〇
- 右含嗽料。

- 過マンガシ酸カリウム 〇二一〇四
- 縮 水 二〇〇〇
- 右含嗽料。
- 過マンガシ酸カリウム 一〇
- 水 二〇〇〇
- 右塗布料(驚口瘡)。
- 昇 汞 〇五一一〇
- 水 一〇〇〇〇
- 右洗滌料。
- 過酸化水素 二〇
- 縮 水 三〇〇〇
- 右塗布料。
- ヨードフォルム 一五〇
- 右撒布料。
- ヨードフォルム 一〇一〇二〇
- 「ワゼリン」 二〇〇
- 右軟膏トナシ外用。
- ヨードフォルム 二二〇

- 「ラノリン」 各一〇〇
- 「ワゼリン」
- 右軟膏トナシ外用。
- 次硝酸蒼鉛 各二〇〇
- 澱 粉
- 右混和撒布料。
- クレーデ軟膏 五〇〇
- 右塗擦料。
- チモール 一〇
- 縮 水 一二〇〇〇
- 右洗滌料。
- ゾツヨードール 三〇〇
- 澱 粉 二〇〇
- 右撒布料。
- 石灰水 各一〇〇〇
- 縮 水
- 右含嗽料。

(七) 利尿劑 Diuretica.

- 醋酸「カリウム」液 一〇―二〇―五〇
- 縮 水 一〇〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和毎二時一兒匙宛 一〇〇〇
- 「キナ」皮煎 (八〇)
- 醋酸「カリウム」液 二二五
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和毎二時一兒匙宛 一〇〇〇
- 「チギタリス」葉浸 (〇二―〇五―一〇)
- 單舍利別 一〇〇〇
- 右混和毎二時一兒匙宛 二〇〇
- 「チギタリス」葉浸 (〇一―〇三―一〇〇〇)
- 醋酸「カリウム」液 二二五
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和毎二時一兒匙宛 一〇〇〇

○濾製「チギタリス」越幾斯 Extract. Dig. dialys. Golaz.

- ・右一日三四五―十五滴宛。
- ストロファンツス丁幾 〇五
- 縮 水 一〇〇〇
- 覆盆子舍利別 二〇〇
- 右混和一日數回一兒匙宛八―十歳。
- 「ヂウレチン」 〇二―〇五―一〇
- 乳 糖 〇三
- 右散一包量一日三四回一包宛。
- 「ヂウレチン」 〇三―一〇五
- 縮 水 一〇〇〇
- 右混和毎三時一兒匙宛 一〇〇〇
- 「デオチン」 〇三
- 右散一包量一日三四回一包宛。
- (八) 吐劑 Emetica.
- 鹽酸「アポモルヒネ」 〇〇―一―〇〇二

(九) 興奮劑 Excitantia.

- 縮 水 一〇〇
- 右混和半乃至一筒宛皮下注射。
- 硫酸銅 〇二―一〇五
- 單舍利別 一〇〇
- 縮 水 四〇〇
- 右混和毎五―十分時ニ一茶匙宛催吐迄。
- 吐根浸 (一〇)
- 海葱醋 五〇〇
- 右混和毎十分時一兒匙宛 一〇〇
- 吐根末 〇五―一〇
- 吐酒石 〇〇二
- 薄荷水 〇〇二
- 單舍利別 各三〇〇
- 右混和毎十分時一茶匙宛。
- 吐根酒 各一五〇
- 海葱醋 各一五〇
- 右混和毎十分時一茶匙宛。

- 研末樟腦 一〇
- 「オレーフ」油 一〇〇
- 右混和毎二時半乃至一筒宛皮下注射。
- 研末樟腦 各〇〇―一〇〇五
- 安息香酸 〇三
- 自 糖 〇三
- 右散一包量毎二時一包宛。
- 「エーテル」 一〇〇
- 右十分ノ一乃至半筒宛皮下注射。
- 麝香丁幾 五〇
- 右十分ノ一乃至半筒宛皮下注射。
- 麝香末 〇〇五―一〇二
- 白 糖 〇三
- 右散一包量(蠟紙ニ包ム)毎二時一包宛。
- 安息香酸「ナトリウムカフェイン」 〇一
- 白 糖 〇三
- 右散一包量一日二―三四回一包宛。
- 安息香酸「ナトリウムカフェイン」 一〇

〇 餾水 一〇〇

右混和毎三時三分ノ一乃至一箇宛皮下注射。

〇 硫酸「スバルテイン」 〇四

右混和一日三四三分ノ一乃至半箇宛皮下注射。

(十) 祛痰劑 Expectorantia.

〇 吐根浸 (〇・二—〇・三) 一〇〇〇

「アンモニアアニス」液 一・五—二〇

單舍利別 二〇〇

右混和毎二時一兒匙宛。

〇 吐根浸 (〇・二—〇・五) 八〇〇

「ペラドンナ越幾斯」 〇〇五

「アルテア」舍利別 二〇〇

右混和毎二時一茶匙宛。

〇 吐根浸 (〇・三) 八〇〇

「アムモニアアニス」液 各一〇

「クロールアムモニウム」 二〇〇

「アルテア」舍利別 二〇〇

右混和毎二時一茶匙宛。

〇 吐根浸 (〇・二) 八〇〇

苦扁桃水 二〇〇

「ゼネガ」舍利別 二〇〇

右混和毎二時一兒匙宛。

〇 金硫黃 〇〇二—〇〇五

白糖 〇三

右散一包量毎二—三時一包宛。

〇 「セネガ」根煎 (二・五—三・〇—五・〇)

「アムモニアアニス」液 一〇〇〇

單舍利別 一五—二〇

右毎二時一兒匙宛。

〇 鹽酸「アボモルヒネ」 〇〇一—〇〇五

餾水 五〇〇

(十一) 下劑 Laxantia.

右混和毎一時一茶匙宛。

〇 蓖麻子油 一五〇

右一茶匙乃至一兒匙宛。

〇 蓖麻子油 一五〇

「アラビアゴム」末 七五

餾水 六〇〇

右乳劑トナシ

「マンナ」舍利別 一〇〇

右毎二時一兒匙宛。

〇 甘汞 〇〇一—〇〇三—〇〇五

乳糖 〇三

右散一包量毎二時一包宛作用ノ現ハ

ル、迄。

〇 甘汞 各〇〇五

大黃根末 〇三

乳糖 〇三

右散一包量毎二時一包宛作用ノ現ハル、迄。

〇 複方甘草散 三〇〇

右半乃至一茶匙宛數回服用。

〇 複方「センナ」浸 一〇〇〇

右毎二時一兒匙宛作用現ハル、迄。

〇 大黃根浸 (四・〇—八・〇) 一〇〇〇

重碳酸「ナトリウム」 二五—五〇

單舍利別 二〇〇

右混和毎二時一兒匙宛。

〇 「ボドファイリン」 〇二

酒精 一〇

覆盆子舍利別 四〇〇

右混和一日一—二回半乃至一茶匙宛。

〇 「カスカラサクラダ」流動越幾斯 五〇〇

右朝夕半茶匙宛。

〇 「マンナ」舍利別 各二〇〇

大黃舍利別 各二〇〇



右混和朝夕一茶匙宛。

(十二) 麻醉劑 Narcotica.

- 鹽酸「モルヒネ」 〇〇五
- 縮 水 一〇〇
- 右皮下注射料。
- 鹽酸「モルヒネ」 〇〇一〇〇三
- 苦扁桃水 五〇
- 右混和一回五―二十滴宛。
- 阿片丁幾 〇〇七五―〇二
- 白 糖 二〇
- 右分五包一日一―二包宛。
- 阿片丁幾 〇〇五
- 苦扁桃水 〇五
- 薄荷水 各三〇〇
- 茴香水 二〇〇
- 單舍利別
- 右混和每一時一茶匙宛。

○阿片安息香丁幾。

- 茴香水 五〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和一日三回一茶匙宛。
- 阿片吐根散 〇〇一〇〇三
- 白 糖 〇三
- 右散一包量一日三回一包宛。
- 磷醣「コデイン」 〇〇一
- 縮 水 八〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右混和一日三回一茶匙宛。
- 「ペラドン」越幾斯 〇〇三―〇〇五
- 杏仁水 一〇―二〇
- 「アルテア」舍利別 各三〇〇
- 吐根舍利別
- 右混和一日三―四回一茶匙宛咳嗽。
- 抱水「クロラール」 〇三―〇五―一〇
- 橙皮舍利別 二〇〇

縮 水 一〇〇〇

右混和每二時一兒匙宛。

○抱水「クロラール」 〇三―一〇―一五

縮 水 一〇〇〇

右混和浣腸料二―三回ニ。

○プロームカリウム 一五―三〇

縮 水 一〇〇〇

單舍利別 一〇〇

右混和一日三―四回一兒匙宛。

○プロームナトリウム

「プロームアムモニウム」 各二〇

縮 水 一〇〇〇

右混和一日三―四回一〇匙宛。

○プロモフォルム 五〇

右一日三回三―六滴宛。

(十三) 強壯劑 Tonica.

「キナ」皮煎 (五〇―一〇〇) 一〇〇〇

十滴

稀鹽酸

橙皮舍利別 二〇〇

右混和每二―三時一兒匙宛。

○林檎鐵丁幾 三〇〇

右一日三回十―十二滴宛。

○ヨード鐵舍利別 一〇〇

單舍利別 二〇〇

右混和一日三回半乃至一兒匙宛。

○加糖ヨード鐵 〇〇一―〇〇五

乳 糖 〇三

右散一包量一日二回一包宛。

○ヨードフェラト「ゼ」 五〇〇

右一日三―五茶匙宛。

○「マンガン」鐵「ペプトン」液 五〇〇

右一日二回一茶匙宛。

○肝 油 一〇〇〇

右一日二―三回半乃至一兒匙宛。 〇〇一

肝 油

右混和一日二回一茶匙宛。

○肝油加「マルツ」越幾斯

右一日二―三回半乃至一兒匙宛。

○複方「キナ」丁幾

苦味丁幾

大黃丁幾

右一日三四五―二十滴宛。

一〇〇〇

一〇〇〇

各五〇

近世兒科學後編索引

エックナーマ	一三三三	肉中毒	一三三〇	銅鹽類中毒	一三三三
異物	七〇八	「ニコチン」中毒	一三三四	搐搦症	八四五
異物	七二〇	ほ		腸室扶斯	一一七
異物	一三三〇	抱水「クローラル」中毒	一三三六	蟲刺	一三〇〇
「インフルエンザ」	二九八	疳行疹	一三三四	衄血	七〇六
遺傳性運動失調	九七三	いんふ		「チギタリス」中毒	一三三九
疫咳	一三〇五	偏頭痛	八八六	り	
ろ		偏癱性腦性小兒麻痺	九四一	リツトル氏病	九四五
肋膜炎	七五五	「バスト」	二九〇	流行性感胃	一一八
はばは		百斯篤	二九〇	流行性腦脊髄膜炎	九〇一
ハイネ、メアン氏病	九五六	「ペンチン」中毒	一三三三	機中毒	一三三一
肺結核	七七二	ぢぢ		鱗屑癬	二九八九
肺氣腫	七〇七	トムセン氏病	八八〇	る	
發疹室扶斯	一一七	痘瘡	一〇四三	「ルベガラ」	一〇〇九
「パラチフス」	二五二	疼痛性腫麻痺	九六一	わ	
パセドウ氏病	八二三			ワイル氏病	一三三五

かが

疥癬 一三三  
 加答兒性肺炎 七四九  
 甲狀腺腫 八二二  
 硬腦膜血腫 八九一  
 化膿性腦膜炎 八九三  
 假性破傷風 八六六  
 假性格魯布 「カンタリヂン」中毒 七四四  
 間歇熱 二二六  
 外耳炎 一三〇七  
 顔面神經麻痺 九七九  
 よ  
 「ヨード」中毒 一三三二  
 幼兒脊髓性進行性筋萎縮 九七四  
 たた  
 苔癬 一三九八  
 多發性神經炎 九八三  
 多發性瘤瘡 一三〇一  
 多形滲出性紅斑 一三七三

丹毒

單純性腦膜炎 二七五  
 大膿疱疹 八九三  
 大葉性肺炎 一三九二  
 大水疱疹 七五七  
 第四病 二九三  
 ぞ  
 鼠咬病 一〇三六  
 「ゾラニン」中毒 一〇三三  
 わ  
 粘液浮腫 一三四〇  
 な  
 鉛中毒 八二六  
 の  
 腦實血塞 九三六  
 腦充血 九三三  
 腦硬化症 九四八  
 腦卒中 九六六  
 腦膿瘍 九七七

二

腦血管ノ血塞 九二五  
 腦血管ノ血栓 九二五  
 腦出血 九二六  
 腦腫瘍 九二六  
 腦震盪症 九二六  
 腦貧血 九二六  
 腦性小兒麻痺 九二六  
 く  
 「クロ、フォルム」中毒 一三三七  
 「グロール」酸「カリウム」中毒 一三三三  
 格魯布性肺炎 七五七  
 や  
 痒疹 二九七  
 夜驚症 八八八  
 ま  
 麻刺利亞 一三二六  
 麻疹 九八五  
 慢性肺炎 九七九  
 慢性中耳炎 七六八  
 一三七

慢性關節僂麻質斯 一三三  
 慢性腦水腫 九七二  
 慢性喉頭加答兒 七七七  
 慢性氣管枝加答兒 七四三  
 慢性鼻加答兒 七〇二  
 け  
 結核性腦膜炎 九二一  
 結節性紅斑 一七三  
 けさ  
 フイラトウゲユーク氏病 一〇三六  
 フリードライヒ氏病 九七二  
 河豚中毒 一四〇〇  
 風疹 一〇〇七  
 「プロム」化物中毒 一三五五  
 舞蹈病 八七八  
 こ  
 黒死病 二九〇  
 紅斑 一三七  
 「コカイン」中毒 一三三八  
 喉頭筋麻痺 七四四

喉頭腫瘍 七三三  
 「コルヒチン」中毒 一三八  
 「コカイン」中毒 一三七  
 虎列刺 一六四  
 「コフエイン」中毒 一三三  
 後天性瓣膜異常 八三三  
 紅疹 一〇〇七  
 て  
 疔瘰癧塞 一三〇九  
 定期性夜咳 七四八  
 「タマニ」 八六九  
 天疱瘡 一三九三  
 點頭瘰 八八四  
 癩癧 八五一  
 天然痘 一〇三三  
 電擊様舞蹈病 八八三  
 傳染性膿疱疹 二九一  
 傳染性紅斑 一〇一〇  
 あ  
 「アトロピン」中毒 一三三三  
 「アルカリ」中毒 一三八

三

「アルコホル」中毒 一三一九  
 壓迫性脊髄炎 九六五  
 亞鉛鹽中毒 一三四一  
 「アテトーゼ」 八八三  
 亞細亞虎列刺 一六四  
 「アンチフェブリン」中毒 一三九  
 「アンチヒリン」中毒 一三二  
 「アンチモニー」中毒 一三二〇  
 け  
 截癱性強直性小兒麻痺 九四五  
 再歸熱 一六〇  
 「サリチール」酸中毒 一三六  
 「サントニン」中毒 一三六  
 酸中毒 一三七  
 酸化炭素中毒 一三三  
 き  
 「キニーネ」中毒 一三三  
 氣管枝肺炎 七四九  
 氣管枝擴張 七四七  
 氣管枝腺結核 七四二  
 氣管枝喘息 七四四

氣管小枝炎	七三三
急性中耳炎	一三三二
急性流行性小兒麻痺	九六六
急性化膿性腦質炎	九七〇
急性關節炎	一三三九
急性多發性關節炎	一三三九
急性喉頭加答兒	七〇〇
急性氣管氣管枝加答兒	七〇〇
急性出血性腦質炎	九四四
急性真性肺炎	七五七
急性鼻加答兒	六九七
急性鼻炎	六九七
急性脊髓炎	九六六
急性脊髓前角炎	九六六
胸腺死	八一九
胸腺喘息	八一九
胸水症	八二〇
氣胸	八二〇
氣胸症	八二〇
筋萎縮	九七四
菌毒中毒	一三三九
魚肉中毒	一三三〇
銀鹽中毒	一三三九
義膜性鼻加答兒	七五
縮馬中毒	一三三九
脂肪變性症	八四〇
子癎	八四〇
濕疹	二二二
猩紅熱	一〇三
漿液性腦膜炎	八九六
實扶的里	一〇九
種痘	一〇五
蕁酸中毒	一三四
蛇毒中氣	一三六
心內膜炎	八二〇
心囊炎	八二〇
神經痛	九六三
神經性進行性筋萎縮	九七五
神經性心悸亢進	八四四
神經衰弱	八六〇
進行性筋萎縮	九六
心筋炎	八七
毒麻疹	二九五
百日咳	一〇五
砒石中毒	一三三
歇私的里	八六三
鼻息肉	七〇九
糜爛	二八〇
鼻茸	七〇九
毛細氣管枝加答兒	七三三
青酸中毒	一三三
生虱病	一〇二
聲門痙攣	八六八
聲門水腫	七一九
小兒急癩	八四
小葉性肺炎	七四九
赤痢	一三
石炭酸中毒	一三六
石油中毒	一三四

脊髓癆	九七三
脊髓ノ壓迫麻痺	九六五
脊髓膜炎	九五五
脊髓腫瘍	九七四
脊髓性小兒麻痺	九六六
旋頭痙	八八四
纖維素性肺炎	七五七
纖維素鼻加答兒	七〇五
先天性異常(心臟)	八二〇
先天性筋弛緩症	九八三
先天性筋緊張症	八九〇
先天性四肢強直	九四五
前鋸筋麻痺	九八〇
全身敗血症	一三三
水痘	一〇七
水胸	八二〇
水銀中毒	一三五
「ストリキニーネ」中毒	一三四〇

明治四十三年二月廿六日第一版發行  
 明治四十四年九月廿三日第二版發行  
 大正二年九月十日第三版印刷  
 大正二年九月十三日第三版發行

(正價金參圓五拾錢)

著者 長尾美知

千葉縣千葉町旭町

發行者 河野幸藏

東京市本郷區本富士町二番地

印刷者 野村宗十郎

東京市京橋區築地三丁目二番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所

東京市京橋區築地三丁目七番地

不許  
複製

發兌元 明文館書店

(電話) 下谷五六一一(番)  
 振替貯金口座東京三六五八(番)

東京市本郷區本富士町二番地

大賣捌所

東京市芝區愛宕町三丁目  
 明文館支店  
 千葉縣千葉町市場  
 明文館支店

肆書捌賣

東京市本郷區本富士町二番地	南江堂書店
同 大塚區春日町二丁目	牛田屋書店
同 日本橋區三丁目	丸善書店
同 神田區區新石町	朝香屋書店
同 本郷區區新石町	吐鳳堂書店
同 本郷區區島切通坂町	金原書店
同 本郷區區春日町三丁目	南江堂支店
同 本郷區區四町	南山堂書店
同 神田區區表神保町	東京堂書店
同 大塚區區春日町一丁目	松村九兵衛
同 心齋橋區區傳勞町	丸善書店
同 京都市三條區區寺町	丸善出張所
同 名古屋區區本町三丁目	丸善堂
同 長崎區區引地町	安中集榮堂
同 熊本區區新地二丁目	長崎區區集榮堂
同 金澤市片町	宇都宮書店
同 岡山市上ノ町	渡邊宗次郎
同 仙臺市新傳馬町	金英堂書店

新刊

傳染病研究所部長醫學博士照內豐先生著

# 醫化學

全二册

●上卷既刊 正價金壹圓五拾錢 小包料金拾貳錢 ●下卷近日發刊

近刊豫告

醫學博士樋口繁次先生著

# 婦人科學

全二册

1237-21

## REGISTER

### A.

Alkalivergiftung . . . . .	1318
Alkoholvergiftung . . . . .	1319
Anämie des Gehirns. . . . .	923
Angeborene Anomalie (Herz) . . . . .	820
Antifebrinvergiftung . . . . .	1319
Antimonievergiftung . . . . .	1320
Antipyrinvergiftung . . . . .	1321
Apoplexia cerebri . . . . .	939
Armlähmung, Schmerzhaft, kleiner Kinder. . . . .	981
Arsenikvergiftung . . . . .	1321
Asthma bronchiale . . . . .	744
— thymicum . . . . .	819
Ataxia hereditaria . . . . .	972
Athetose . . . . .	883
Atropinvergiftung . . . . .	1322

### B.

Basedowsche Krankheit . . . . .	813
Benzinvergiftung . . . . .	1323
Blattern . . . . .	1043
Blausäurevergiftung . . . . .	1323
Bleivergiftung . . . . .	1324
Bromidevergiftung . . . . .	1325
Bronchiectasie . . . . .	747
Bronchitis capillaris . . . . .	733
— chronica . . . . .	748
Bronchopneumonie . . . . .	749

**C.**

Cantharidinvergiftung . . . . .	1326
Capillarbronchitis . . . . .	733
Carbolsäurevergiftung . . . . .	1326
Cerminalfropf . . . . .	1309
Chloralhydratvergiftung . . . . .	1327
Chloroformvergiftung . . . . .	1327
Chininvergiftung . . . . .	1326
Cholera . . . . .	1164
Cholera asiatica . . . . .	1164
Chorea electoria . . . . .	882
— minor . . . . .	878
Cocainvergiftung . . . . .	1327
Colchicinvergiftung . . . . .	1328
Commotio cerebri . . . . .	954
Coniivergiftung . . . . .	1328
Coryza acuta . . . . .	697
— chronica . . . . .	702

**D.**

Digitalisvergiftung . . . . .	1329
Diphtherie . . . . .	1079
Diplegia spastica infantilis . . . . .	945
Drucklähmung des Rückenmarkes . . . . .	968
Dysenterie . . . . .	1175
Dystrophia musculorum progressiva . . . . .	976

**E.**

Eclampsia infantum . . . . .	845
Ekthyma . . . . .	1292
Ekzema . . . . .	1282

Emphysema pulmonum . . . . .	770
Encephalitis acuta haemorrhagica . . . . .	934
— purulenta acuta . . . . .	937
Endocarditis . . . . .	828
Epilepsie . . . . .	851
Epistaxis . . . . .	706
Erysipelas . . . . .	1275
Erythema . . . . .	1271
— exsudativa multiforme . . . . .	1272
— infectiosum . . . . .	1010
— nodosum . . . . .	1273

**F.**

Facialislähmung . . . . .	979
Fallsucht . . . . .	851
Farnkrautvergiftung . . . . .	1329
Febris intermittens . . . . .	1216
— reccurens . . . . .	1160
Fettige Degeneration des Herzmuskels . . . . .	840
Filatow Dukessche Krankheit . . . . .	1036
Fischvergiftung . . . . .	1330
Flecktyphus . . . . .	1157
Fleischvergiftung . . . . .	1330
Fourth disease . . . . .	1036
Fraisen . . . . .	845
Fremdkörper (Kehlkopf) . . . . .	720
— (Nase) . . . . .	708
— (Ohr) . . . . .	1310
Friedreichsche Krankheit . . . . .	972
Furunculosis . . . . .	1301
Furunkelbildung, Multiple . . . . .	1301



**G.**

Gehirnblutung ... ..	939
Gehirnsklerose ... ..	948
Gelenkrheumatismus, Akuter... ..	1219
—, Chronischer ... ..	1222
Genickstarre, Angeborene . . . . .	945
Geschwülste des Gehirns . . . . .	950
Gichter. . . . .	845
Gliederstarre, Epidemische ... ..	901
Glottiskrampf ... ..	858
Glottisödem ... ..	719
Grippe . . . . .	1198

**H.**

Hæmatom der Dura mater ... ..	891
Heine Medinsche Krankheit ... ..	956
Hemicranie.. ... ..	886
Hemiplegia spastica infantilis... ..	941
Herpes. . . . .	1295
Herzfehler, Erworbener ... ..	833
Herzklopfen, Nervöse ... ..	844
Hirnabscess. . . . .	937
Hirnerschütterung ... ..	954
Hirngefäße, Embolie u. Thrombose von. . . . .	925
Hydrocephaloid . . . . .	923
Hydrocephalus chronicus . . . . .	927
Hydrothorax ... ..	810
Hyperämie des Gehirns ... ..	922
Hysterie ... ..	863

**I.**

Impetigo contagiosa... ..	1291
Influenza ... ..	1198
Insektenstich ... ..	1330
Intertrigo ... ..	1280

**J.**

Jodvergiftung ... ..	1331
----------------------	------

**K.**

Kaliumchloricumvergiftung ... ..	1332
Kehlkopfkatarrh, Akute ... ..	710
Kehlkopfmuskellähmung... ..	724
Keuchhusten ... ..	1205
Kinderlähmung, Akute epidemische ... ..	956
—, Spinale ... ..	956
—, Zerebrale . . . . .	940
Koffeinvergiftung. . . . .	1331
Kohlenoxydvergiftung ... ..	1332
Kompressionsmyelitis . . . . .	968
Konvulsion .. . . .	845
Krämpfe ... ..	845
Krätze . . . . .	1303
Kropf... ..	811
Kupfersalzvergiftung . . . . .	1333

**L.**

Lähmungen. . . . .	979
Laryngitis catarrhalis acuta ... ..	710
— chronica ... ..	717
Lichen . . . . .	1298
Littresche Krankheit . . . . .	945

**M.**

Malaria. ... ..	1216
Masern. ... ..	985
Megalerythema infectiosum ... ..	1010
Meningitis cerebrospinalis epidemica ... ..	901
—, heilbare ... ..	899
— purulenta ... ..	893
— serosa. ... ..	898
— simplex ... ..	893
— spinalis ... ..	955
— tuberculosa ... ..	911
Migräne ... ..	886
Mittelohrentzündung, Akute ... ..	1312
Morbus Basedowii ... ..	813
— sacer .. ... ..	851
— Thomsen ... ..	890
Morphinvergiftun ... ..	1333
Mors thymica ... ..	819
Muskelatonie ... ..	983
Muskelatrophie... ..	974
—, Frühinfantile spinale progressive .. ... ..	974
—, Progressive ... ..	976
—, —, nenrotische ... ..	975
Myatonia congenita... ..	983
Myelitis spinalis . ... ..	955
Myocarditis . ... ..	837
Myotonia congenita... ..	890
Myxidiotie... ..	816
Myxoedem .. ... ..	816

**N.**

Nachthusten, Periodisches. ... ..	748
-----------------------------------	-----

Nasenbluten. ... ..	706
Nasenpolyp . ... ..	709
Nesselsucht . ... ..	1295
Neuralgien . ... ..	982
Neurasthenie ... ..	860
Nickkrampf. ... ..	884
Nikotinvergiftung ... ..	1334

**O.**

Ohrenschmalzpfropf... ..	1309
Otitis externa ... ..	1307
— media acuta ... ..	1312
— — chronica... ..	1317
Oxalsäurevergiftung... ..	1334

**P.**

Paralyse douloureuse ... ..	981
Paratyphus . ... ..	1151
Pavor nocturnus. ... ..	888
Pediculosis... ..	1302
Pemphygus . ... ..	1293
Pericarditis.. ... ..	840
Pertussis ... ..	1205
Pest ... ..	1190
Petroleumvergiftung... ..	1334
Phosphorvergiftung ... ..	1335
Pleuritis ... ..	795
Pneumonia chronica... ..	768
— crouposa ... ..	757
— fibrinosa ... ..	757
Pneumonie, Akute genuine ... ..	757
—, Katarrhalische . ... ..	749

Pneumonie, Lobäre ... .. .	757
—, Lobuläre... .. .	749
Pneumothorax ... .. .	710
Pocken. ... .. .	1043
Poliomyelitis anterior acuta ... .. .	956
Polyarthrits acuta ... .. .	1219
Polyneuritis. ... .. .	983
Prurigo. ... .. .	1295
Pseudocroup ... .. .	714
Pseudotetanus ... .. .	876
Psoriasis ... .. .	1279

**Q.**

Quecksilbervergiftung. ... .. .	1333
---------------------------------	------

**R.**

Rattenbisskrankheit ... .. .	1243
Rhinitis acuta ... .. .	697
— chronica ... .. .	702
— fibrinosa ... .. .	705
— pseudomenbranacea. ... .. .	705
Rose ... .. .	1275
Röteln. ... .. .	1007
Rubeola ... .. .	1007
Rückenmarkstumoren. ... .. .	974
Rückfallfieber ... .. .	1160
Ruhr ... .. .	1175

**S.**

Salizylsäurevergiftung. ... .. .	1336
Santoninvergiftung ... .. .	1336

Säurevergiftung. ... .. .	1337
Scabies. ... .. .	1303
Scarlatina ... .. .	1013
Scharlach ... .. .	1013
Schlangengiftvergiftung ... .. .	1338
Schnupfen, Akute ... .. .	697
Schuppenflecht ... .. .	1299
Schutzpockenimpfung. ... .. .	1051
Schwämmevergiftung. ... .. .	1339
Schwarze Tod ... .. .	1190
Sepsis, Allgemeine ... .. .	1223
Serratuslähmung. ... .. .	980
Silbersalzevergiftung .. ... .. .	1339
Sinusthrombose... .. .	926
Solaninvergiftung ... .. .	1340
Spasmus glottidis ... .. .	858
— mutans ... .. .	884
— rotatorius... .. .	884
Stimmritzenkrampf ... .. .	858
Struma. ... .. .	811
Strychninvergiftung ... .. .	1340

**T.**

Tabes dorsalis ... .. .	973
Tetanie. ... .. .	869
Tetrodonvergiftung ... .. .	1340
Thymustod. ... .. .	819
Tracheobronchitis acuta ... .. .	728
Tuberculose der Bronchialdrüsen ... .. .	772
— der Lunge. ... .. .	772
Tumoren im Larynx. ... .. .	723
Tussis convulsiva ... .. .	1205
Typhus abdominalis... .. .	1127

Typhus exanthematicus ... .. 1157

**U.**

Unterleibstyphus. ... .. 1127

Urticaria ... .. 1295

**L.**

Varrillae ... .. 1037

Variola. ... .. 1043

Varizellen ... .. 1037

Veitslanz ... .. 878

Vierte Krankheit ... .. 1036

**W.**

Wasserkopf, Chronischer . ... .. 927

Wasserpocken ... .. 1037

Wechselfie ber... .. 1216

Weil'sche Krankheit . ... .. 1215

Windpocken ... .. 1037

**Z.**

Zerebrallähmung, Halbseitige, der Kinder ... .. 941

Zerebrallähmung, Infantile. ... .. 940

Zinksalzevergiftung ... .. 1341

終